

目次

基本的なファイルオプションの使用	1
基本的なファイルオプションの使用: イントロダクション	1
新しい測定ルーチンの作成.....	2
測定ルーチンパッケージの作成.....	3
既存の測定ルーチン	3
測定ルーチンの保存	7
改名保存.....	9
スキーマ番号と古いバージョンへの保存について	11
測定ルーチンのアーカイブを使用した操作.....	12
ファイル操作の実行	13
ミラー変換	13
コピー.....	19
削除する.....	20
名前の変更	20
査証.....	22
言語の変更.....	45
Teamcenterへの接続	46
プリンタ オプションの設定.....	46
グラフィックの表示ウィンドウの印刷.....	47
グラフィックの表示ウィンドウ用の出力設定とプリンタ オプション設定.....	47

印刷作業のプレビュー	49
編集ウィンドウの印刷.....	49
レポートウィンドウの印刷.....	51
レポートウィンドウの出力およびプリンタオプションの設定.....	52
測定ルーチンを閉じて終了する.....	75
ソフトウェアの終了	76

基本的なファイルオプションの使用

基本的なファイルオプションの使用: イン トロダクション

PC-DMISは、測定ルーチンを操作し、お客様の重要なファイルを管理するための数多くのオプションを提供します。ほとんどのWindowsベースのプログラムと同様、Windows標準ダイアログ ボックスを用いて基本的なファイル管理ができます。これらには、ファイル作成、ファイルを開く、コピー、名前の変更、ファイルの削除といった操作が含まれます。これに加え、PC-DMISを通して、CADデータのインポート及びエクスポート、または完成した測定ルーチンの実行など、さらに高度なオペレーションも行えます。

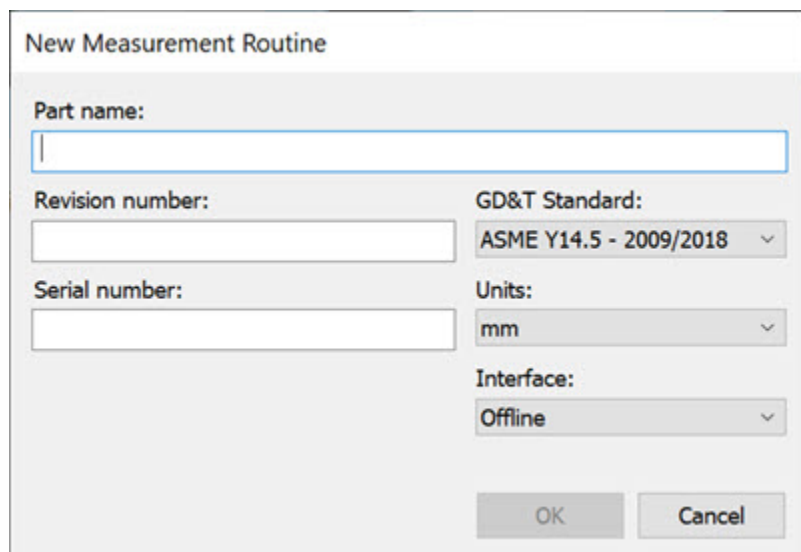
この章では、特に基本のファイルオプションについて記述しています。より高度なオプションについては、「高度なファイルオプションの使用」の章を参照して下さい。

この章に記述されているオプションは以下のとおりです:

- 新しい測定ルーチンの作成
- 既存の測定ルーチンを開く
- 測定ルーチンの保存
- 測定ルーチンのアーカイブを使用した操作
- ファイル操作の実行
- Teamcenterへの接続
- 言語変更
- グラフィックの表示ウィンドウの印刷
- レポートウィンドウの印刷
- 測定ルーチンを閉じて終了する
- PC-DMISを閉じる

新しい測定ルーチンの作成

既存の測定ルーチンがない場合は、**新しい測定ルーチン**ダイアログボックスを使用して新しい測定ルーチンを作成することができます。このダイアログボックスには**ファイル | 新規**メニューオプションによってアクセスできます。



The image shows a 'New Measurement Routine' dialog box. It contains several input fields and dropdown menus. At the top is a 'Part name:' label followed by a text input field. Below this are two columns of fields. The left column has 'Revision number:' and 'Serial number:' labels, each followed by a text input field. The right column has 'GD&T Standard:', 'Units:', and 'Interface:' labels, each followed by a dropdown menu. The 'GD&T Standard' dropdown is currently set to 'ASME Y14.5 - 2009/2018'. The 'Units' dropdown is set to 'mm'. The 'Interface' dropdown is set to 'Offline'. At the bottom right of the dialog are two buttons: 'OK' and 'Cancel'.

測定ルーチンの新規作成ダイアログボックス

これで新しい測定ルーチンを作成できます。パート名、改訂番号、シリアル番号を入力し、使いたい GD&T 標準 測定単位および CMM のインターフェイスタイプを選択します。**[OK]** をクリックすると、PC-DMIS は測定ルーチンを作成します。

新規測定ルーチンを作成するために PC-DMIS が要求することは、**[パート名]** ボックスが値を持つことだけです。**改訂番号** および **シリアル番号** ボックスに入力する情報は省略可能です。

デフォルトでは PC-DMIS は **[GD&T 標準]** 一覧から **ASME Y14.5 - 2009/2018** 標準を選択します。これを異なる標準に変更することができます。

GD&T 標準は測定ルーチン内のサイズ (寸法) 公差または幾何公差に影響を与えます。選択する標準は従来の寸法には影響を与えません。**[設定オプション]** ダイアログボックスの **[幾何公差]** タブからいつでも選択した GD&T 標準を変更することができます。但し、この設定は変更時点における測定ルーチンの内容に応じて測定ルーチン全体に適用されるため、ルーチンの動作が異なることがあります。

[幾何公差] タブについては、「環境設定」章にある「設定オプション：幾何公差タブ」を参照してください。

幾何公差の使用について詳しくは、PC-DMIS Core ドキュメントにある「幾何公差の使用」章を参照してください。

従来の寸法の使用について詳しくは、PC-DMIS Core ドキュメントの「従来の寸法 (レガシー寸法) の使用」章を参照してください。



ホームページで新しい測定ルーチンを作成することもできます。最も頻繁に使用するコマンドが測定ルーチンに配置されるようにテンプレートから測定ルーチンを作成することもできます。また、テンプレートから作成する測定ルーチンの移動先フォルダーを選択することもできます。詳しくは、「ユーザーインターフェイスの操作」章の「ホームページ」および「測定ルーチンテンプレートの使用」を参照してください。

測定ルーチンパッケージの作成

[ファイル | パッケージ] を選択して、測定ルーチンとその依存ファイルから成る.zip ファイルを作成します。

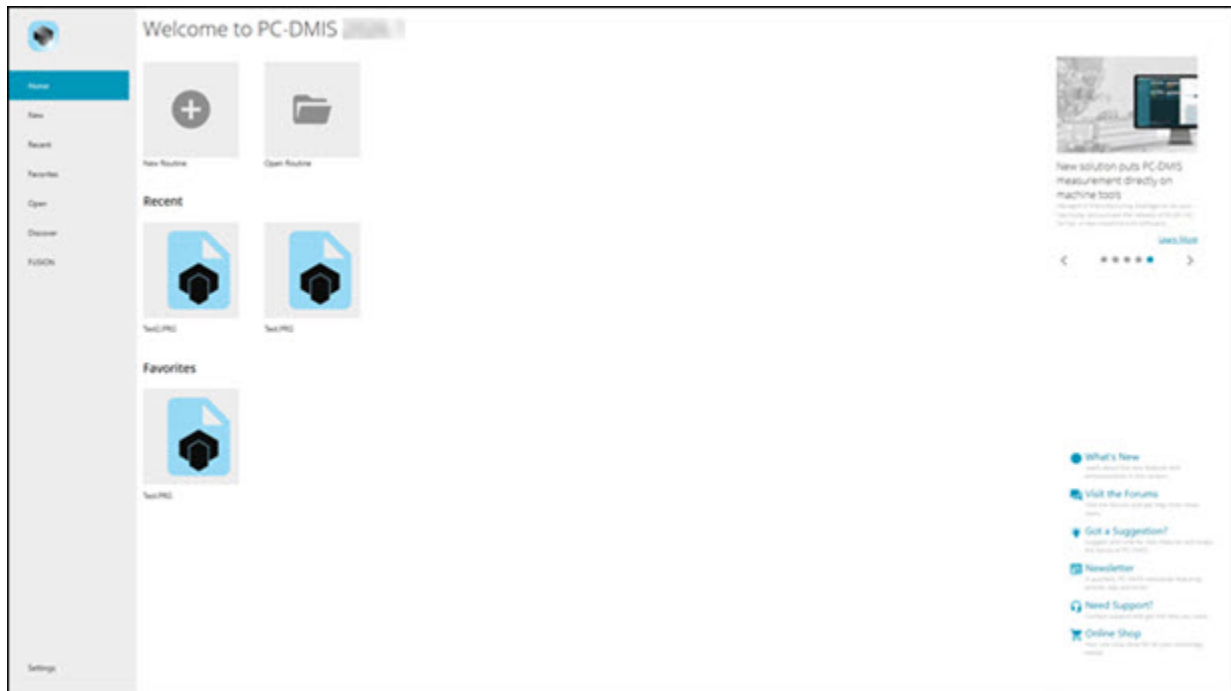
測定ルーチンパッケージについて詳しくは、PC-DMIS ツールキットモジュールドキュメントの「測定ルーチンパッケージ」章を参照してください。

既存の測定ルーチン

[ホームページ] または [ファイル | 開く] メニューオプションから測定ルーチンを開くことができます。

ホームページを使用する

ホームページについては、「ユーザーインターフェイスの操作」章の「ホームページ」トピックに記載されています。



ホームページ

有効なバージョン



PC-DMIS の有効なバージョンで作成された測定ルーチン (.prg) のみを開くことができます。このバージョンの PC-DMIS で PC-DMIS バージョン 2020 R2 より前に作成された測定ルーチンを開こうとすると、PC-DMIS はエラーメッセージを表示します。

無効な測定ルーチンファイルをコピーしようとしたときのエラーメッセージの例。

PC-DMISメッセージ

シリアル化エラー

このバージョンの PC-DMIS は、バージョン 2020 R2 から今実行中のバージョンまでの PC-DMIS で作成された測定ルーチンしか読み込むことができません。

この測定ルーチンは 2020 R2 以前のバージョンで作成されています。

[ファイルオープン] ダイアログボックスを使用する

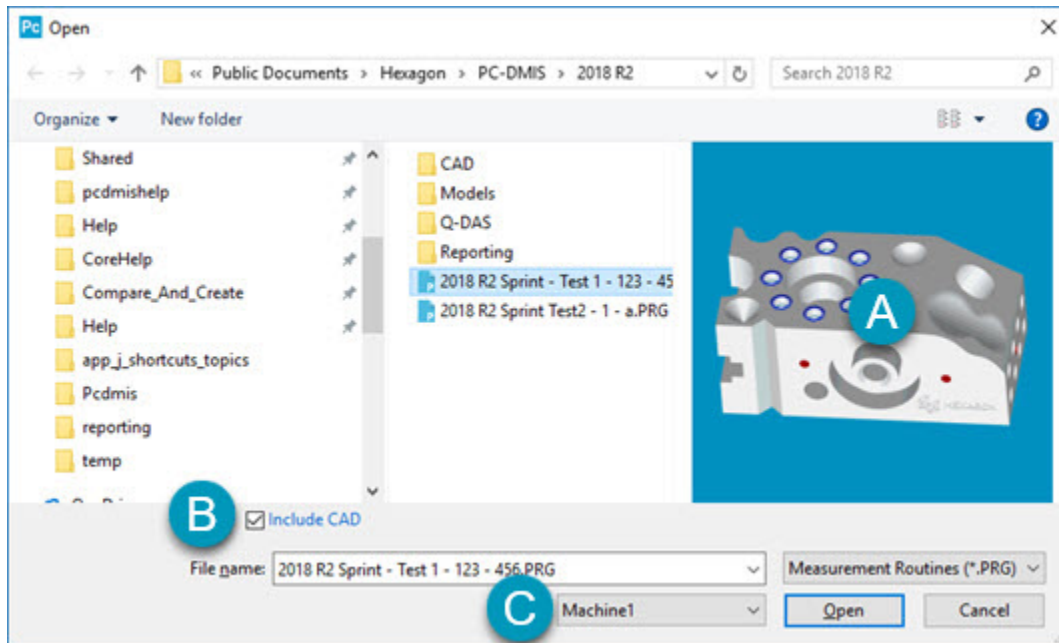
[開く]ダイアログボックスを使用して、測定ルーチンを見つけて開くことができます。

[開く]ダイアログボックスを開くには、[ファイル|開く]を選択します。



バージョン3.2以前のバージョンで作成されたこのバージョンで測定ルーチンを開いても、古いバージョンでは機能しません。古いバージョンの PC-DMISで測定プログラムを使用する場合は必ずバックアップを作成してください。

このダイアログボックスは標準的なWindowsの開くダイアログボックスであり、次の追加項目があります:



[開く] ダイアログボックス

- A. **プレビュー** - ダイアログ ボックスのこのエリアには、グラフィック表示ウィンドウ (ラベルなし) におけるパートの最後の表示に対するCAD画像が表示されます。パートにCADデータがない場合、画像は測定された幾何形状を表示します。ホームページの「右ペイン」からサムネイルを設定すると、PC-DMISはプレビュー画像としてサムネイルを表示します。
- B. **CADを含む** - このチェックボックスは、測定ルーチンを開くときにCADモデルをロードするかどうかを決定します。CAD モデルが開いている測定ルーチンの一部である場合、**[CAD を追加する]** チェックボックスをクリックします。このチェックボックスをオフにすると、測定ルーチンを開いたときにPC-DMISはCADモデルをロードしません。
- C. **インターフェイス** - このリストには、システム内のオンライン測定機及びオフラインオプションが表示されます。
 - PC-DMISがオンラインモードで実行されている場合、この測定ルーチンに使用する測定機インタフェースを選択できます（複数のCMMがある場合）。
 - PC-DMISがオフラインモードで実行されている場合は、**オフライン測定** オプションを選択できます。



PC-DMISを起動すると開くダイアログボックスが自動的に開き、既存の測定ルーチンを開くことができます。ただし、この機能をオフにする場合は、[セットアップオプション]ダイアログボックスの[全般]タブで、[起動ダイアログボックスを表示する]チェックボックスをオフにします。

オープン時のプローブ変換メッセージ

以前のバージョンから測定ルーチンを開いている場合、測定ルーチンに最終形式に使用された任意のプローブファイルを変更したいのかを尋ねる警告メッセージを受信することがあります。

PC-DMISの古いバージョンでプローブの使用を計画すると、プローブファイルを更新することができません。しかし、プローブファイルを最後形式に更新する前に、PC-DMISのバージョンにプローブのいくつかの新しい要素が利用できないのを注意してください。

測定ルーチンを開いているとき、このメッセージを受信し続ける場合は、はいをクリックした後でも、ファイル|名前を付けて保存 操作を実行して、PC-DMISのバージョンで互換性があるように測定ルーチンを保存する必要があります。詳細については、「名前を付けて保存」トピックを参照してください。

サブルーチン名

以前のバージョンで180文字を超える名前を付けられたサブルーチンを含む測定ルーチンを開くと、サブルーチンの名前は自動的に最初の180文字に短縮されます。



ホームページで新しい測定ルーチンを開くこともできます。詳しくは、「ユーザーインターフェイスの操作」章の「ホームページを参照してください」。

測定ルーチンの保存

現在の測定ルーチンで行われた作業を保存するには、ファイル|保存オプションを選択できます。ファイルを初めて保存する場合、[名前を付けて保存]ダイアログボックスが現れます。このダイアログボックスにより、お手持ちの測定ルーチンの保存先を選択できます（より詳しい情報については、「名前を付けて保存」トピックを参照して下さい）。

（[名前を付けて保存]ダイアログボックスから）測定ルーチンを旧バージョンのPC-DMISとして保存した場合、PC-DMISは以降この測定ルーチンを保存する際にメッセージを表示します。このメッセージは測定ルーチンを前に選択した旧バージョンに保存するかどうかを尋ねます。ユーザーは下記のオプションを選択できます。

- **はい** - PC-DMISは測定ルーチンを古いバージョンに保存します。
- **いいえ** - PC-DMISは測定ルーチンを現在のバージョンに保存します。
- **キャンセル** - PC-DMISは保存せずに保存のプロセスを終了します。



認定された測定ルーチンを古いバージョンのPC-DMISに保存することはできません。

このメッセージの表示を止めたい場合、「優先設定」の章の「警告」を参照してください。

認定済の測定ルーチンを保存すると、PC-DMISは**保存**ダイアログボックスを表示します。

The screenshot shows a 'Save' dialog box. The title bar is dark teal with the word 'Save' in white and a question mark icon on the right. The main area is white. On the left side, there is a large, dark gray padlock icon. On the right side, there is a 'User' label above a text input field, and a 'Comments *' label above a larger text area. At the bottom right, there are two buttons: 'Save' and 'Cancel'.

[保存] ダイアログボックス

[保存]ボタンをクリックすると、.protectファイルにコメントを付けて測定ルーチンに加えたすべての変更が保存されます。

認定済の測定ルーチンについては、「認定」を参照してください。



特定のイベントでは、測定ルーチンは自動的にアーカイブされます。詳細については「測定ルーチンのアーカイブの操作」を参照してください。

改名保存

ファイル| 名前を付けて保存オプションを選択するか、測定ルーチンを初めて保存すると、[名前を付けて保存]ダイアログボックスが表示されます。

- このダイアログボックスでのファイル名オプションを使用して、現在の測定プログラムを新規ファイル名で保存することができます。
- また、測定プログラムを旧バージョンのPC-DMISで保存することもできます。

測定プログラムを保存するには**保存**ボタンをクリックします。

測定プログラムを保存せずにダイアログボックスを閉じるには、**取り消し**ボタンをクリックします。

認定された測定ルーチン

[名前を付けて保存]ダイアログボックスの[保存]ボタンをクリックして、認定された測定ルーチンを現在のバージョンのPC-DMISに保存すると、ソフトウェアにメッセージが表示されます。[名前を付けて保存]ダイアログボックスが閉じる前に、新しい測定ルーチンで認証を保持するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。

ユーザーは下記のオプションを選択できます：

- **はい** - PC-DMISは測定手順を保存し、新しい測定手順に関する認証を維持します。また、.protectファイルを生成し、前の.protectファイルからの変更を追跡し続けます。
- **いいえ** - PC-DMISは測定手順を保存しますが、新しい測定手順に関する認定を保持しません。
- **キャンセル** - PC-DMISは保存せずに名前を付けて保存を終了します。

旧バージョンのPC-DMISに保存する



認定された測定ルーチンを古いバージョンのPC-DMISに保存することはできません。

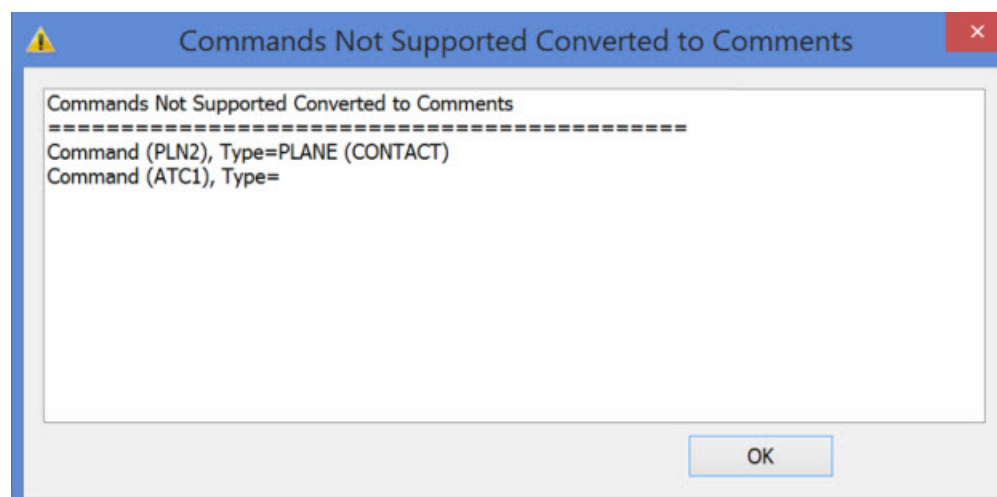
バージョン番号の一覧から、現在のバージョンと以前のバージョンのPC-DMISが使用できる形式で測定ルーチンを保存することができます。使用できるバージョンには3.20x以降です。

- 測定ルーチンを古いバージョンのPC-DMISに保存しようとし、測定ルーチンに古いバージョンがサポートしないコマンドが含まれていると、PC-DMISはそれらのコマンドをコメントに変換します。
- 認定された測定ルーチンを以前のバージョンのPC-DMISに保存しようとする、PC-DMISは、認定された測定ルーチンのみを現在のバージョンに保存できるというメッセージを表示します。

この測定プログラムの保存を取り消すには、**取り消し**をクリックします。

旧バージョンへの測定プログラムの保存を続行するには、**保存**をクリックします。

PC-DMISは非サポートコマンドをコメントに変換し、**コメントへの変換がサポートされていないコマンド**ダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスにはPC-DMISがコメントに変換した非サポートコマンドの一覧が表示されます。以下にその例を記載します。



[コメントへの変換がサポートされていないコマンド] ダイアログボックス

このメッセージを認識したことを確認するには、[OK]をクリックする必要があります。

SaveAsWarningLogEnabled エントリが有効な場合、PC-DMISはメッセージの内容を含むログファイルを自動的に作成します。ログファイルの名前は下記です。

<name>_Save_As_Log_<YYYYMMDDHHMMSS>.log

ここで、<name>は測定プログラムの名前です。<YYYYMMDDHHMMSS>は日付と時刻です。

YYYYは年です。

MMは月です。

DDは日です。

HHは時です。

MMは分です。

SS は秒です。

ログファイルは測定ルーチンのそれと同じフォルダー内にあります。

ログファイルの作成を無効にすることはできません。ヘルプについては、設定エディタドキュメントの「有効化された警告ログとして保存する」トピックを参照してください。

スキーマ番号と古いバージョンへの保存について

PC-DMISの新バージョンはそれぞれ新機能を備えており、旧バージョンが理解できない新しいコマンドを測定ルーチンに保存します。そのため、各測定ルーチンにはPC-DMISの特定バージョンに関連付けられた内部スキーマ番号が割り当てられています。デフォルトでは、[ファイル | 保存]を選択すると測定ルーチンは現在のバージョンのスキーマ番号に割り当てられます。この番号によって、そのバージョン(またはそれ以降のバージョン)のみがその測定ルーチンを開くことができるようになります。

例えば、バージョン 2011 で保存された測定ルーチンがある場合、スキーマ番号は 5008 になります。この測定ルーチンをバージョン 2010に読み込もうとすると、旧バージョンはPC-DMIS 2011で行われた変更を処理できないため、互換性を維持できません。

もちろん、測定ルーチンをバージョン2010フォーマットに戻して保存することを選択することはできます。これにより、測定ルーチンの内部スキーマ番号が4555にドロップされ、バージョン2010で開くことができます。但し、新しいコマンドは使用できません。その代わりに、PC-DMIS は未サポートコマンドを DOCUMENTコメントの内部に保存します。

詳しくは、「編集ウィンドウの使用」章の「\$\$ドキュメント」を参照してください。



カスタムレポート、テンプレート、ラベルテンプレート、およびその他のレポートの修正は下位互換性が「ありません」。

参照としてCADファイルを保存する

参照としてCADを元のCADファイルに保存するには、**参照としてCADを保存**チェックボックスを選択します。このオプションを使用して、新規ファイルをコピーするのではなくユーザーのCADモデルを参照できます。この操作はディスクスペースの節約に役立ちます。

CADモデルを測定ルーチンに読み込むときと名前を付けて保存ダイアログ ボックスにアクセスするときには常に、このオプションを選択できます。

ユーザーが測定ルーチンを開こうとすると、ソフトウェアが元の参照されたCADファイルを見つけることができない場合 (CADファイルの名称変更、削除または保存場所の変更によって)、PC-DMISはユーザーに元のCADファイルを探すように指示します。

測定ルーチンのアーカイブを使用した操作

PC-DMIS は基本的な測定ルーチンのアーカイブ機能を備えています。このアーカイブは、古いバージョンのPC-DMISに存在していた自動ファイル保存機能に代わるものです。

以下のイベントでは2つの測定ルーチンのコピーがバックグラウンドで自動的に作成されます:

- <name>.prg^ は測定ルーチンを保存する直前に作成されます (ここで、<name> は測定ルーチンの名前です)。
- <name>.prg^ は測定ルーチンをロードする直前に作成されます (ここで、<name> は測定ルーチンの名前です)。



上記の PRG~ および PRG^ バックアップファイルには隠された属性セットがあり、「隠しファイルを表示」オプションを設定しない限り Windows Explorer に表示されません。

壊れた測定ルーチンを開こうとした場合、PC-DMIS は (<name>.prg~) を最後に保存する前に作成されたコピーを開くかどうか尋ねます。はいを選択すると、PC-DMIS は壊れた測定ルーチンの名前を <name>.prg.tmp に変え(デフォルトでは、これらのファイルは隠すように設定された隠し属性を持ち、「隠しファイルを表示する」オプションを適切に設定しない場合、Explorer ウィンドウには表示されません)。これは <name>.prg~ を現在の測定ルーチンの名前に改名します。そのバックアップも壊れている場合、PC-DMIS は最後のセッション中にユーザーが測定ルーチン(<name>.prg^)を読み込んだ直前に作成されたバックアップから復元するかどうかを問い合わせます。次に、これは同じ改名とコピーのプロセスを実行します。



他のバックアップ/復元プロセスと同様、復元中に最新の変更が失われる可能性があります。

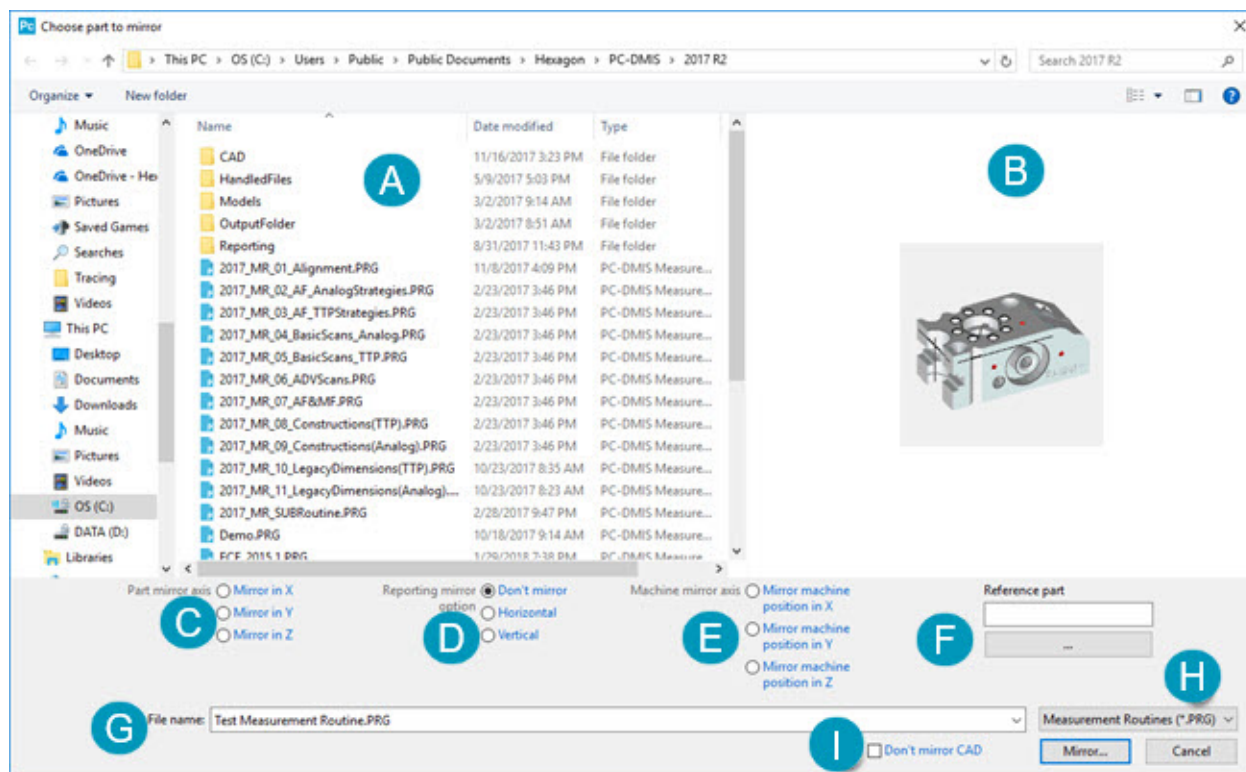
PC-DMIS 設定エディタの `DocumentRecovery` エントリを使用してこの機能を無効/有効にできます。

ファイル操作の実行

PC-DMISのファイル操作で、測定ルーチン・ファイルのミラー、コピー、削除、改名及び検証ができます。

ミラー変換

ミラー コマンド(ファイル| 操作| ミラー) で、測定プログラムのX、 Y、Z 軸に鏡面对称の画像コピーを作成することができます。このコマンドは、[ミラーリングするパーツを選択]ダイアログボックスを開きます。



[ミラーリングするパートを選択] ダイアログボックス



PC-DMIS の有効なバージョンで作成された測定ルーチン (.prg) および CAD ファイルのみをコピーすることができます。このバージョンの PC-DMIS では、PC-DMIS バージョン 2020 R2 以前で作成されたこれらのファイルタイプのいずれかをコピーしようとする、PC-DMIS はエラーメッセージを表示します。

無効な測定ルーチンファイルをコピーしようとしたときのエラーメッセージの例。

PC-DMISメッセージ

X <測定ルーチンファイル> のミラーリングコピー(スキーマ: 1215)。

シリアル化エラー

このバージョンの PC-DMIS は、バージョン 2020 R2 から今実行中のバージョンまでの PC-DMIS で作成された測定ルーチンしか読み込むことができません。

この測定ルーチンは 2020 R2 以前のバージョンで作成されています。

ここで、<測定ルーチンファイル>は、開こうとするファイルの名前と場所です。

次の説明はダイアログボックスで選択可能な項目について記述します。

- A. **測定ルーチン** - このエリアでは、現在のディレクトリで使用可能なすべての測定ルーチンを表示します。
- B. **プレビュー** - このエリアには、グラフィックの表示ウィンドウ（ラベルなし）におけるパートの最後のビューに対するCAD画像が表示されます。測定品にCADデータがない場合、画像は測定された形状を表示します。この領域には、.prgファイルの画像のみが表示されます。
- C. **パーツのミラー軸** - このエリアは測定ルーチンをミラーする場合の軸を定義します。
 - **Xを軸とするミラー** - このオプションは、Xを軸としてパーツをミラーリングします。
 - **Yを軸とするミラー** - このオプションは、Yを軸としてパーツをミラーリングします。
 - **Zを軸とするミラー** - このオプションは、Zを軸としてパーツをミラーリングします。

D. ミラーオプションをレポート - このエリアでは、PC-DMISがレポート内でCADイメージをどのようにミラーリングするかを定義します。

- **鏡面コピーせず** - このオプションは全くミラーリングしません。
- **水平** - このオプションは、CADイメージを水平にミラーリングします。
- **垂直** - このオプションはCAD画像を垂直にミラーリングします。



このエリアはCADReportObjects、CADImageObjects、分析オブジェクト、およびSectionCutObjectsといったレポートオブジェクトのほか、測定ルーチンで定義された任意のビューセットにも影響します。

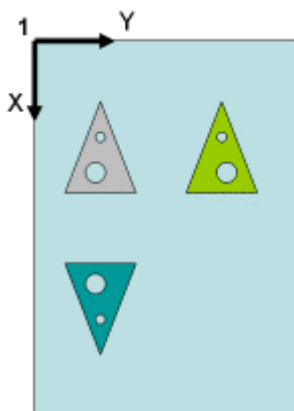
E. 測定機の鏡面反射軸 - このエリアは、仮想マシン上のミラーリングされた部品の向きを定義します。

- **Xに測定機の鏡面反射** - このオプションは、仮想測定機をX軸に鏡面反射します。
- **Yに測定機の鏡面反射** - このオプションは、仮想測定機をY軸に鏡面反射します。
- **Zに測定機の鏡面反射** - このオプションは、仮想測定機をZ軸に鏡面反射します。



PC-DMISはオリジナルパーツと同じ位置でパーツをミラー変換するようになりました。**測定機のミラー軸** エリアを使用して、仮想測定機にあるミラー後のパーツの方向を定義することができます。機械に測定される場所へパーツをシフトする必要があります。

これらのオプションがパーツを配置する方法については、以下の図を参照してください：



1 - 測定機の原点



- 変換元パーツ



- 仮想測定機のY軸でパーツをY軸ミラー変換



- 仮想測定機のX軸でパーツをY軸ミラー変換

- F. **参照パーツ** - このボックスでは、基準パーツからクイック固定具アラインメントデータを取り出し、その情報をミラー変換操作に使用します。

このエリアを使用して参照部品を定義すると、PC-DMISは**測定機のミラー軸**エリアを使用しません。代わりに、ミラー後のパーツの位置と方向が既存の（かつミラー変換後の）参照測定ルーチンよりロードされます。

このオプションは、複数の測定ルーチンが同一の物理パーツに属し、それらをミラー変換する場合に特に役に立ちます。この場合、最初にミラーされた測定ルーチンのミラーパーツの位置と方向を定義するだけで済みます。次に、最初のミラーリングされた測定ルーチンを基準部品として選択して、他の測定ルーチンを反映させることができます。

- G. **ファイル名** - このボックスはミラーリングする測定ルーチンを定義します。
- H. このファイルタイプ一覧は、測定ルーチンファイル (.PRG) のみを表示するように現在のディレクトリの表示をフィルタリングします。
- I. **CADを鏡映しない** - このチェックボックスは、得られたCADが鏡映されているかどうかを決定します。このチェックボックスをオンにすると、結果のCADはミラー化されません。このチェックボックスは、PC-DMISを初めて起動される時にクリアされます。その後、このチェックボックスは、最後の鏡映で適用された状態を保持します。

PC-DMIS Settings Editorを使用して、オプションセクションで
DoNotMirrorCAD エントリの値を変更することができます。

測定ルーチンをミラーするには：

1. 測定ルーチンで無限リストを使用する場合、最初にAlternateTipMirror エントリをTRUEに設定します。このエントリはPC-DMIS設定エディタの[ユーザーオプション]セクションにあります。このエントリは、プローブヘッドがAB角度の1つまたは複数の可能な組み合わせを提供してミラーされた先端ベクトルを生成するケースにおいて、PC-DMISが正しいAB角度を選択するのに役立ちます。
2. [ファイル|操作|ミラー]を選択して、ミラーリングする部品を選択ダイアログボックスを開きます。
3. ミラーする測定ルーチンを選択します。
4. パーツミラー軸 エリアから、ミラー軸を選択します。
5. ミラー変換オプションの表示 エリアから、レポートにCAD画像をミラーリングしたい方法を選択します。
6. [測定機のミラー軸]エリアより、グラフィックの表示ウィンドウに表示される仮想測定機の上にミラーパーツをどのように位置付けるか定義します。
7. 参照パーツをすでにミラーしていた場合には、参照パーツ エリアでブラウズボタンを使用します。このボックスは参照パートからクイックフィクスチャアライメント・データを取り出してミラーしている操作にその情報を使用します。
8. [ミラー]ボタンをクリックすると[名前を付けてミラーパートを保存]ダイアログボックスが開き、ミラー変換用に選択した測定ルーチンのファイル名が表示されます。
9. 測定ルーチンを保存したいディレクトリに移動して[保存]ボタンをクリックします。PC-DMISが測定ルーチンをミラー変換し、そのディレクトリに保存します。必要なファイルをコピーするのに多少時間がかかる場合があります。



PC-DMIS はプローブのAB先端角度のミラー変換も試みます。使用するプローブが正確にミラー変換され、定義、校正されたチップ角度を持たない場合、PC-DMIS は直近の校正済みチップ角度を選択します。校正済みのチップ角度が存在すれば、それが **[セットアップオプション]** ダイアログボックスの **[パーツ/測定機]** タブにある **[リスト警告デルタ]** ボックスで指定した角度内にある場合、近くにある校正済みのチップ角度を選択します。近くに校正済みのABチップ角が存在しない場合、PC-DMISは未校正のABチップ角を完全にミラーしたイメージを作成します。「優先設定」章の「セットアップオプション: パーツ/測定機 タブ」トピックを参照して下さい。

コピー

コピーコマンドでは、指定された測定プログラムに関連するすべてのファイルをコピーすることができます。

測定ルーチンをコピーするには、次のステップを実行します：

1. **[ファイル|操作| コピー]**メニュー項目を選択して、**[パーツファイルのコピー元]**ダイアログボックスを開きます。
2. ディレクトリ構造をナビゲートして測定ルーチンを選択します。
3. コピーボタンをクリックして、**パートファイルのコピー先**ダイアログを表示します。
4. コピーしたい測定プログラムをクリックすると、**ファイル名**ボックスにそのファイル名と拡張子が表示されます。
5. 測定ルーチンをコピーしたいフォルダに移動します。
6. **保存**ボタンをクリックします。

下記のファイルがコピーされます：

- .prg
- .cad
- .001、.002、...、.999の範囲の同じベース名と拡張子を持つ任意ファイル
- 存在する場合、<測定プログラム名>.MiniRoutines.xml
- <測定ルーチン名> .QdasData.xml（存在する場合）

削除する

削除コマンドでは、測定プログラムに関連するすべてのファイルを削除することができます。

測定ルーチンを削除するには：

1. [ファイル|操作| 削除]メニュー項目を選択して、[パーツファイルの削除]ダイアログボックスを開きます。
2. 削除する測定プログラムを選択します。
3. **削除** ボタンをクリックして下さい。PC-DMISは、このファイルをゴミ箱に送ってよいか尋ねるメッセージを表示します。
4. **はい** ボタンをクリックして下さい。

下記ファイルが削除されます：

- .prg
- .cad
- .001、.002、 ...、.999の同じベース名と拡張子を持つ任意ファイル
- 存在する場合、<測定プログラム名>.MiniRoutines.xml
- <測定ルーチン名> .QdasData.xml（存在する場合）

削除されたファイルはゴミ箱へ移されます。

名前の変更

名称変更コマンドでは、測定プログラムに関連するすべてのファイルの名称を変更することができます。



有効なバージョンの PC-DMIS で作成された測定ルーチン (.prg)、プローブ (.prb) およびレポート (.rpt) ファイルの名前しか変更できません。このバージョンの PC-DMIS で、PC-DMIS バージョン 2020 R2 より前に作成されたこれらのファイルタイプのいずれかの名前を変更しようとする、PC-DMIS はエラーメッセージを表示します。

無効な測定ルーチンファイルの名前を変更しようとしたときのエラーメッセージの例。

PC-DMISメッセージ

<測定ルーチンファイル>: ファイルの名前を変更することができませんでした。

この測定ルーチンは PC-DMIS の 2020 R2 より以前のバージョンで作成されているため、その名前を変更することはできません。

ここで、<測定ルーチンファイル>は、開こうとするファイルの名前と場所です。


測定ルーチンの名前を変更するには：

1. [ファイル|操作| 改名]メニュー項目を選択して、[パーツファイルを改名]ダイアログボックスを開きます。
2. 名前を変更する測定プログラムを選択します。
3. [改名]ボタンをクリックして、[パーツファイルの改名先]ダイアログボックスを開きます。
4. ファイル名ボックスに、新しいファイルの名称をタイプ入力して下さい。
5. 保存ボタンをクリックします。即座に名称変更が適用されます。

下記ファイルが名称変更されます：

- .prg
- .cad
- .001、.002、...、.999の範囲の同じベース名と拡張子を持つ任意ファイル
- 存在する場合、<測定プログラム名>.MiniRoutines.xml
- <測定ルーチン名>.QdasData.xml（存在する場合）

査証

検証コマンドを使用すると測定ルーチンを認証して、関連するコメントを追加できます。[ファイル | 操作 | 認証] メニューを選択するか、または [ファイル操作] ツールバーで [認証] ボタン () をクリックします。

検証済の測定ルーチンはプログラマー（PC-DMIS プログラマーグループのメンバー）によって検証されたルーチンです。この測定ルーチンは製造に使用するための内部要件を満たしています。Protect Viewerアプリケーションを使用すると、次のようにこの測定ルーチンに対する変更を管理および追跡できます：

- すべての内部組織要件
- 外部から課された特定のプロセス認証要件（ISOやFDAなど）

Protect Viewer インストーラ (PC-DMISインストーラに付属) は、コンピュータの [ローカルユーザーおよびグループ] フォルダーに**PC-DMIS ユーザー**および**PC-DMIS プログラマーグループ**を作成します。

- **PC-DMIS ユーザーグループ**のユーザーは、認定を行うプログラマーに対して測定ルーチンの提案を提出したり取り消すことができます。また、彼らは測定ルーチンを編集することもできます。
- **PC-DMIS プログラマーグループ**のユーザーは測定ルーチンを編集、認定および拒絶することができます。このグループのユーザーは **PC-DMIS ユーザーグループ**のユーザーが作成した測定ルーチンを編集できません。


ユーザーがいずれかのグループのメンバーでない場合、認証された測定ルーチンを保護モードで開いて表示し、実行することができます。但し、認証済みの測定ルーチンを認証したり編集することはできません。

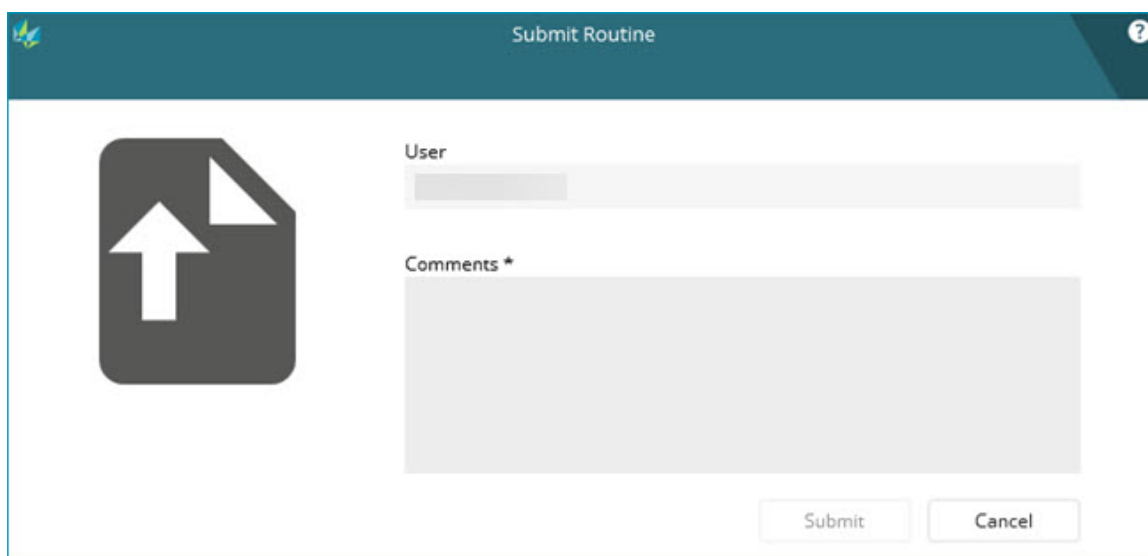
あなたが**PC-DMIS ユーザーグループ**と**PC-DMIS プログラマーグループ**の両方のメンバーである場合、PC-DMIS はあなたをユーザーであるとみなします。



PC-DMIS ユーザーまたは **PC-DMIS プログラマーグループ** (ユーザーの追加、変更など) を変更するには、コンピュータの管理者に問い合わせてください。

PC-DMIS ユーザー特定ダイアログボックス

- **ルーチンの送信** - このダイアログボックスでは測定ルーチンを送信して、.protect ファイルを生成することができます。[ファイル操作] ツールバーの[送信] ボタン () をクリックして、[ルーチンを送信] ダイアログボックスを開きます。




[ルーチンの送信] ダイアログボックス

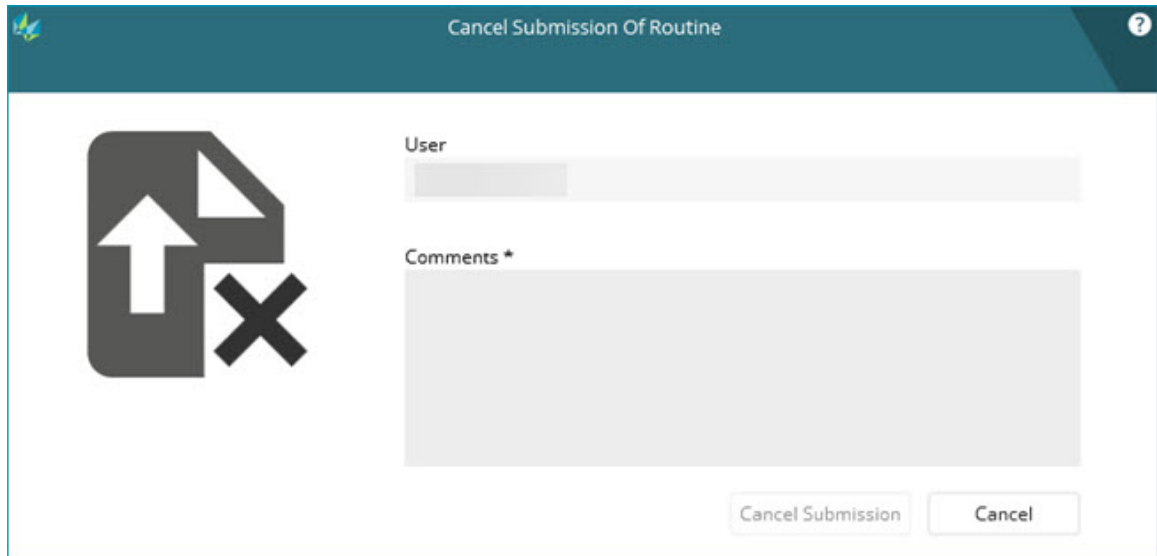
ユーザー - このボックスにはネットワークのユーザー名が表示されます。

コメント - このボックスでは認証のために測定ルーチンを送信する前に、コメントを追加することができます。

送信 - このボタンは測定ルーチンを送信して保存し、ダイアログボックスを閉じて、測定ルーチンと同じフォルダーに .protect ファイルを生成します。ファイル名は <測定ルーチンのファイル名>.PRG.protect です。ここで、<測定ルーチンのファイル名> は測定ルーチンのファイル名です。デフォルトのフォルダーの場所は以下です: "C:\Users\Public\Documents\Hexagon\PC-DMIS\2026.1".


キャンセル - このボタンを押すとすべての変更を無視し、ダイアログボックスを閉じます。

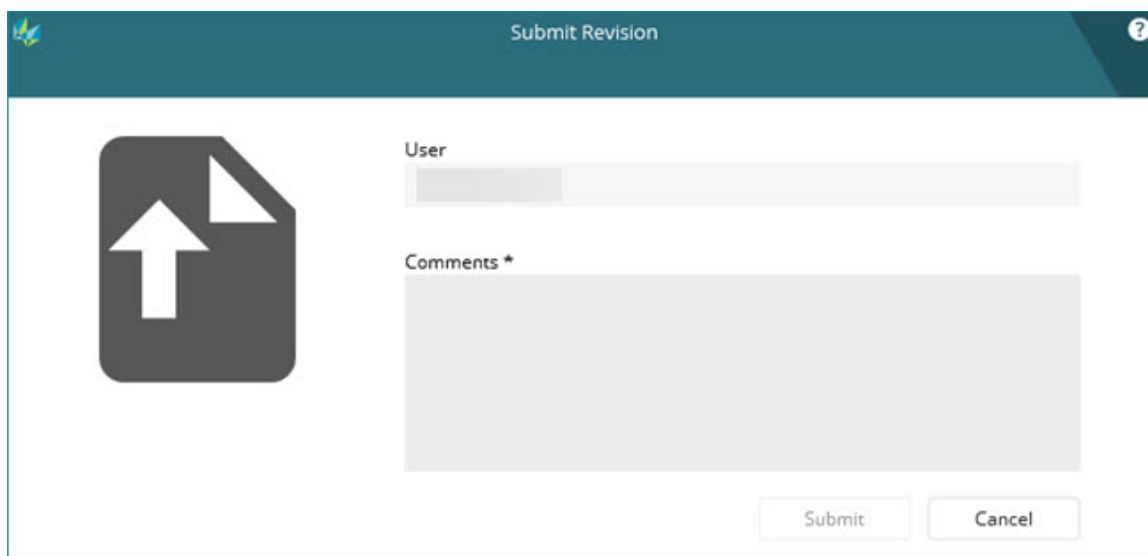
- ルーチンの送信のキャンセル** - このダイアログボックスでは測定ルーチンの送信をキャンセルできます。[ファイル操作]ツールバーから、[送信の取り消し] ボタン () をクリックして、[ルーチンの送信の取り消し] ダイアログボックスを開きます。



[ルーチンの送信の取り消し] ダイアログボックス


提出をキャンセル - このボタンは測定ルーチンの提出を取り消します。ユーザーは認証のために測定ルーチンを再送信する必要があります。

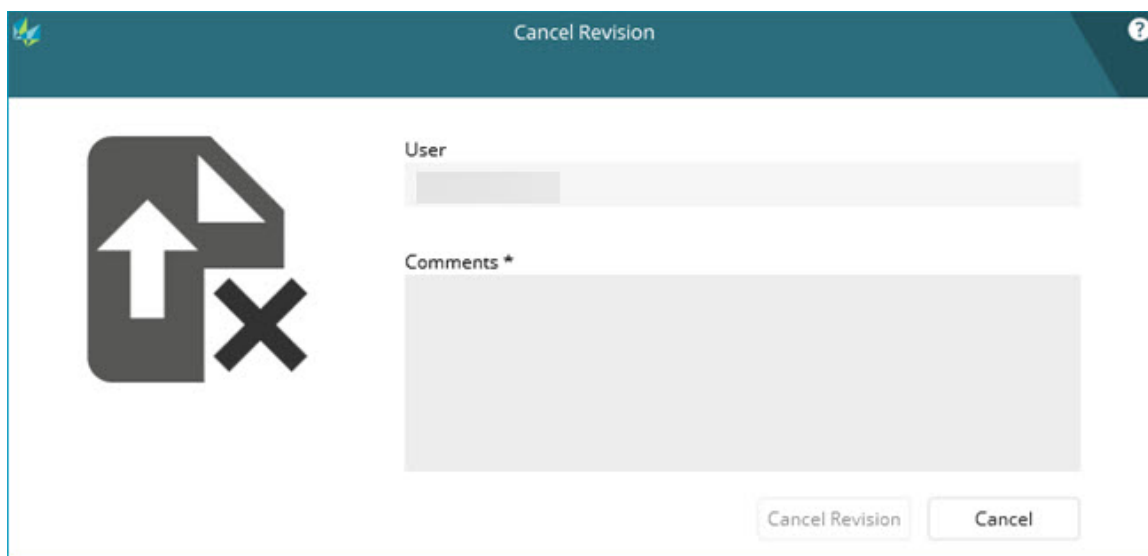
- 改訂の送信** - このダイアログボックスでは、改訂および認証された測定ルーチンを再認証のために PC-DMIS プログラマーグループのメンバーに送信することができます。[ファイル操作]ツールバーから、[送信] ボタン () をクリックして、[改訂を送信] ダイアログボックスを開きます。



The 'Submit Revision' dialog box features a dark teal header with a logo on the left and a question mark icon on the right. The main area is white and contains a large icon of a document with an upward arrow on the left. To the right of this icon are two input fields: 'User' and 'Comments *'. The 'User' field is a single-line text box, and the 'Comments *' field is a larger multi-line text box. At the bottom right, there are two buttons: 'Submit' and 'Cancel'.

[改訂] ダイアログボックス


- **改訂の取り消し** - このダイアログボックスを使うと改訂済み測定ルーチンの再認証のための送信を取り消すことができます。[ファイル操作]ツールバーから、[送信の取り消し] ボタン () をクリックして、[改訂の取り消し] ダイアログボックスを開きます。

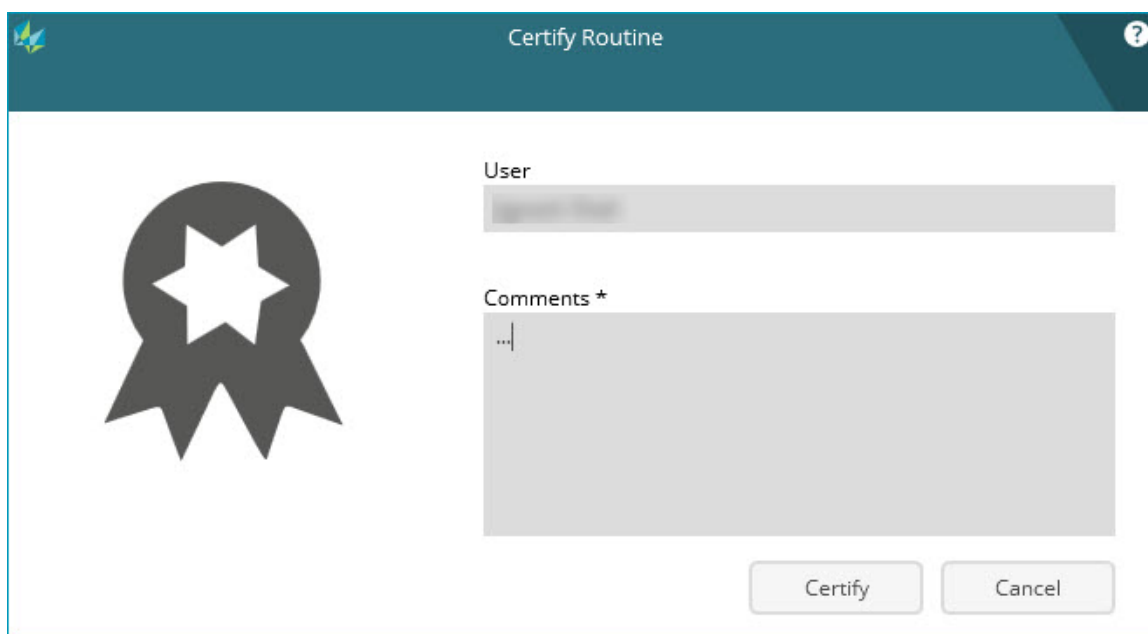


The 'Cancel Revision' dialog box has a dark teal header with a logo on the left and a question mark icon on the right. The main area is white and contains a large icon of a document with an upward arrow and a red X on the left. To the right of this icon are two input fields: 'User' and 'Comments *'. The 'User' field is a single-line text box, and the 'Comments *' field is a larger multi-line text box. At the bottom right, there are two buttons: 'Cancel Revision' and 'Cancel'.

[改訂] ダイアログボックス


PC-DMIS プログラマー特定ダイアログボックス

- ルーチンの認証** - このダイアログボックスでは測定ルーチンを認証でき、ユーザーからの送信なしでそれを認証する場合は、.protect ファイルを生成できます。[ファイル | 操作 | 認証] メニューオプションを選択するか、または [ファイル操作] ツールバーから [認証] ボタン () をクリックして [ルーチンの認証] ダイアログボックスを開きます。

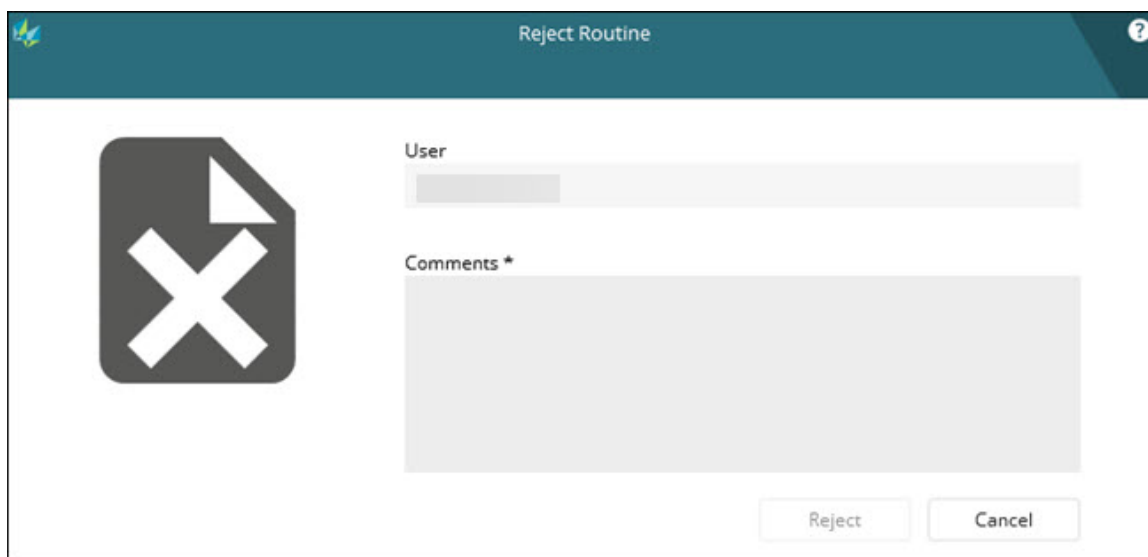


[ルーチンの認証] ダイアログボックス

認証 - このボタンは測定ルーチンを認証して保存し、ダイアログボックスを閉じます。ユーザーからの送信なしで測定ルーチンを認証する場合、このボタンをクリックすると、測定ルーチンと同じフォルダーに .protect ファイルが生成されます。ファイル名は <測定ルーチンのファイル名>.PRG.protect です。ここで、<測定ルーチンのファイル名> は測定ルーチンのファイル名です。デフォルトのフォルダーの場所は以下です: "C:\Users\Public\Documents\Hexagon\PC-DMIS\2026.1".


- ルーチンの拒否** - このダイアログボックスでは、送信された測定ルーチンを拒否できます。[ファイル操作] ツールバーから、[拒否] ボタン () をクリックして

、[ルーチンの拒否]ダイアログボックスを開きます。このボタンは、ユーザーが認証のために測定ルーチンを送信するときのみ利用できます。


The image shows a software dialog box titled "Reject Routine". On the left side, there is a large icon of a document with a white 'X' on it. To the right of the icon, there is a text input field labeled "User" and a larger text area labeled "Comments *". At the bottom right of the dialog, there are two buttons: "Reject" and "Cancel". The dialog has a dark teal header bar with a question mark icon in the top right corner.

[ルーチンの拒絶] ダイアログボックス

拒否 - このボタンは測定ルーチンの提出を拒否します。ユーザーは認証のために測定ルーチンを再送信する必要があります。

- **改訂** - このダイアログボックスには [認定済のルーチン] カラムと [改訂済のルーチン] カラムが表示され、測定ルーチンの認証後に行われた変更を確認できます。
。[ファイル操作] ツールバーから、[再認証] ボタン () をクリックして [改訂] ダイアログボックスを開きます。


Certified Routine	Revised Routine
<pre> CR1 =FEAT/CONTACT/CIRCLE/DEFAULT,CARTESIAN,UNLEAST_SQR THEO<80,101,20><0,0,1>16.4 ACTL<80,101,20><0,0,1>16.4 TARG<80,101,20><0,0,1> START ANG=0,END ANG=360 ANGLE VEC=<1,0,0> DIRECTION=CCW SHOW FEATURE PARAMETERS=NO SHOW CONTACT PARAMETERS=YES NUMHITS=4,DEPTH=2,PITCH=0 SAMPLE METHOD=SAMPLE_HITS SAMPLE HITS=0,SPACER=0 FIND HOLE=DISABLED,ONERROR=NO,READ POS=NO SHOW HITS=NO </pre>	<pre> CR1 =FEAT/CONTACT/CIRCLE/DEFAULT,CARTESIAN,UNLEAST_SQR THEO<80,101,20><0,0,1>16.4 ACTL<80,101,20><0,0,1>16.4 TARG<80,101,20><0,0,1> START ANG=0,END ANG=360 ANGLE VEC=<1,0,0> DIRECTION=CCW SHOW FEATURE PARAMETERS=NO SHOW CONTACT PARAMETERS=YES NUMHITS=4,DEPTH=2,PITCH=0 SAMPLE METHOD=SAMPLE_HITS SAMPLE HITS=0,SPACER=0 FIND HOLE=DISABLED,ONERROR=NO,READ POS=NO SHOW HITS=NO </pre>
<pre> CYL2 =FEAT/CONTACT/CYLINDER/DEFAULT,CARTESIAN,UNLEAST_SQR THEO<121.60,0><0,0,1>16.4,20 ACTL<121.60,0><0,0,1>16.4,20 TARG<121.60,0><0,0,1> START ANG=0,END ANG=360 ANGLE VEC=<1,0,0> DIRECTION=CCW SHOW FEATURE PARAMETERS=NO SHOW CONTACT PARAMETERS=YES NUMHITS=4,NUMLEVELS=2,DEPTH=0,END OFFSET=0,PITCH=0 SAMPLE METHOD=SAMPLE_HITS SAMPLE HITS=0,SPACER=0 FIND HOLE=DISABLED,ONERROR=NO,READ POS=NO SHOW HITS=NO </pre>	<pre> CYL2 =FEAT/CONTACT/CYLINDER/DEFAULT,CARTESIAN,UNLEAST_SQR THEO<200.60,0><0,0,1>16.4,20 ACTL<200.60,0><0,0,1>16.4,20 TARG<200.60,0><0,0,1> START ANG=0,END ANG=360 ANGLE VEC=<1,0,0> DIRECTION=CCW SHOW FEATURE PARAMETERS=NO SHOW CONTACT PARAMETERS=YES NUMHITS=4,NUMLEVELS=2,DEPTH=0,END OFFSET=0,PITCH=0 SAMPLE METHOD=SAMPLE_HITS SAMPLE HITS=0,SPACER=0 FIND HOLE=DISABLED,ONERROR=NO,READ POS=NO SHOW HITS=NO </pre>
	<pre> PLN1 =FEAT/CONTACT/PLANE/DEFAULT,CARTESIAN,NONLEAST_SQR THEO<120.25,632.0><0,0,1> ACTL<120.25,632.0><0,0,1> TARG<120.25,632.0><0,0,1> ANGLE VEC=<1,0,0>SQUARE SHOW FEATURE PARAMETERS=NO SHOW CONTACT PARAMETERS=YES NUMHITS=2,NUMROWS=2 SPACER=0 SHOW HITS=NO </pre>
	<pre> CR2 =FEAT/CONTACT/CIRCLE/DEFAULT,CARTESIAN,UNLEAST_SQR THEO<130.0,50><0,-1,0>28 ACTL<130.0,50><0,-1,0>28 TARG<130.0,50><0,-1,0> START ANG=0,END ANG=360 ANGLE VEC=<1,0,0> DIRECTION=CCW SHOW FEATURE PARAMETERS=NO SHOW CONTACT PARAMETERS=YES NUMHITS=4,DEPTH=2,PITCH=0 SAMPLE METHOD=SAMPLE_HITS SAMPLE HITS=0,SPACER=0 FIND HOLE=DISABLED,ONERROR=NO,READ POS=NO SHOW HITS=NO </pre>
	<pre> DIM COAX=COORDINATE FROM CYLINDER CYL2 TO THE ORIGIN EXTENDLENGTH=0.000 UNITS=IN \$ GRAPH=OFF TEXT=OFF MULT=10.00 OUTPUT=BOTH AX NOMINAL +TOL -TOL MEAS DEV OUTTOL M 0.000 0.004 0.000 16.441 16.441 16.437 -----> </pre>

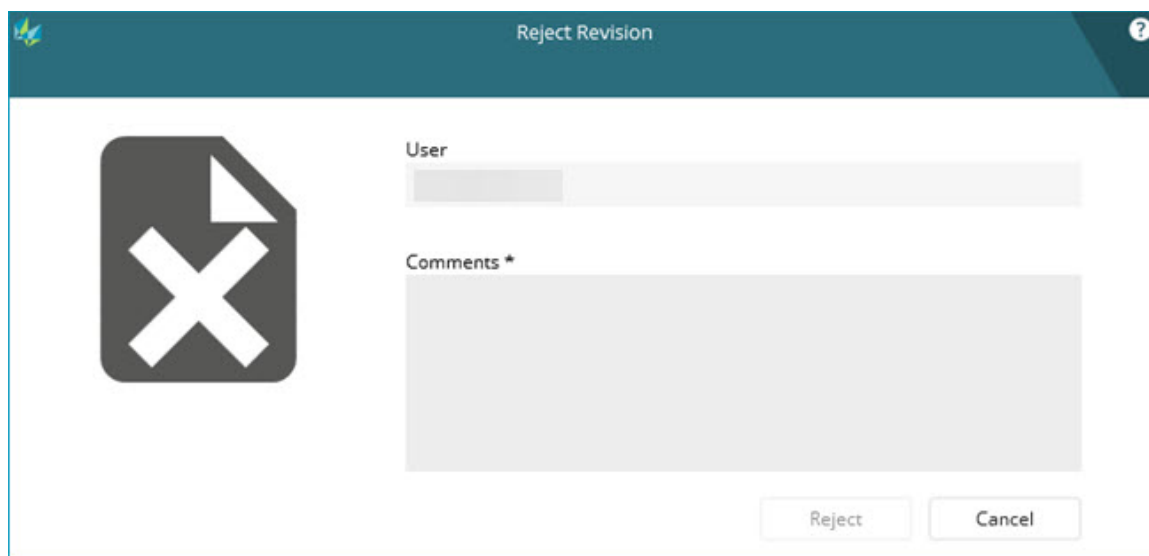


User


 Comments *

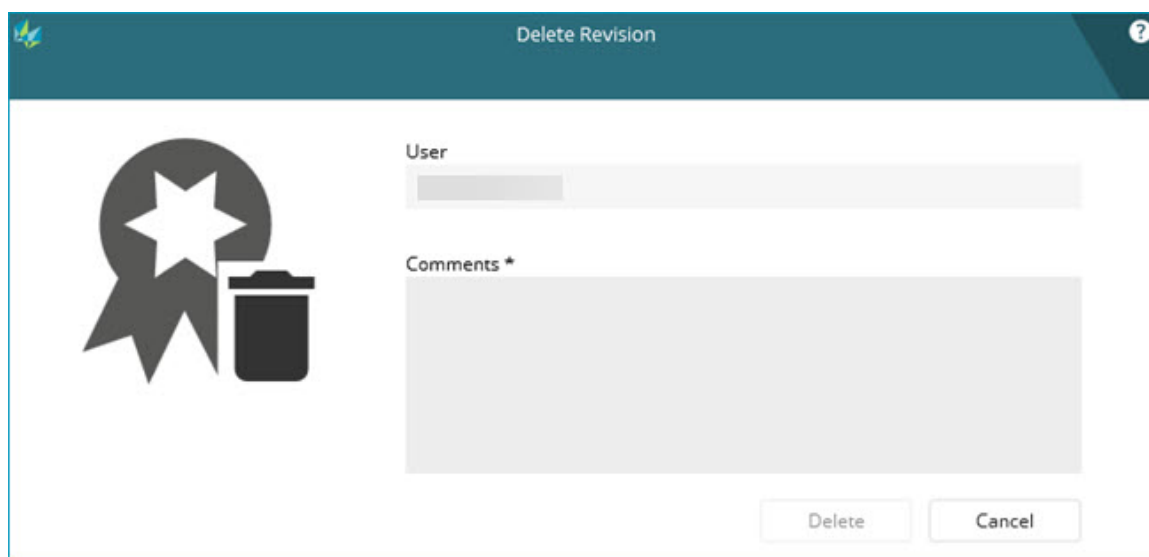
[改訂] ダイアログボックス

- 改訂の拒否 - このダイアログボックスでは、認証後に行われた変更を削除せずに拒否することができます。[ファイル操作]ツールバーから、[拒否] ボタン () をクリックして、[改訂の拒否] ダイアログボックスを開きます。



[改訂] ダイアログボックス

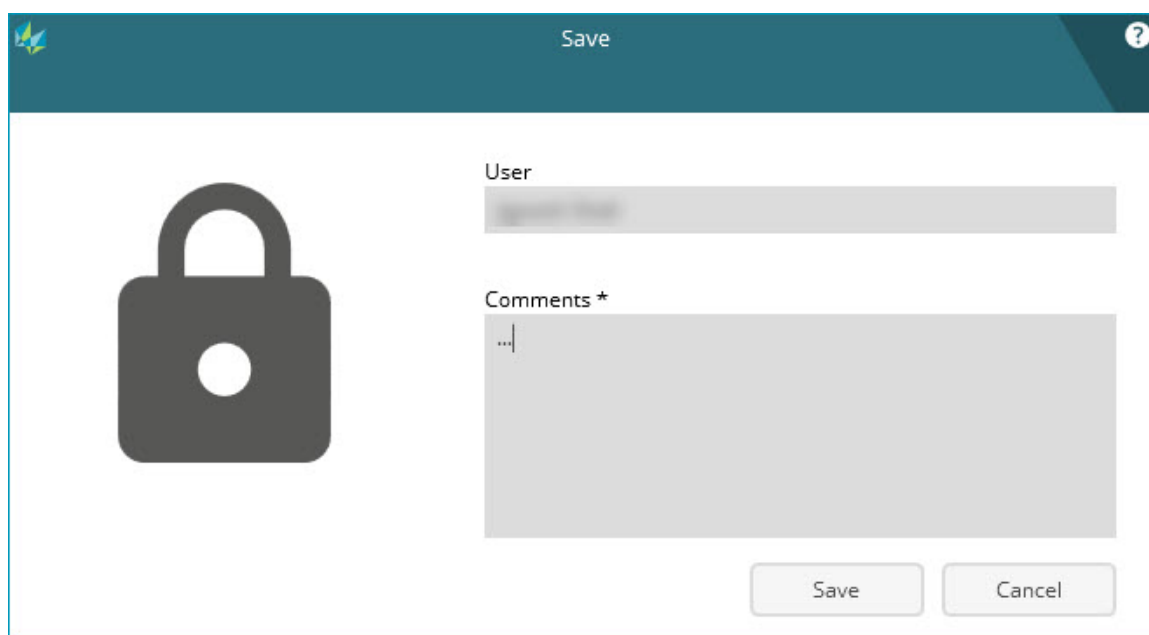
- **改訂の削除** - このダイアログボックスでは、認証後に行われた変更を削除できます。[ファイル操作]ツールバーから、[削除] ボタン () をクリックして、[改訂の削除] ダイアログボックスを開きます。



[改訂の削除] ダイアログボックス


- **保存** - このダイアログボックスは、認証後に測定ルーチンを編集できるユーザーにのみ表示されます。測定ルーチンの認定後にユーザーが変更を保存すると常に、PC-DMISは [保存]ダイアログボックスを表示します。このダイアログボック

スは、要素または寸法に関連する測定ルーチンに加えられた変更を保存する場合にのみ表示されます。

A screenshot of a 'Save' dialog box. The title bar is dark teal with the word 'Save' in white and a question mark icon on the right. The main area has a light gray background. On the left is a large dark gray padlock icon. On the right, there is a 'User' label above a text input field, and a 'Comments *' label above a larger text area. At the bottom right are two buttons: 'Save' and 'Cancel'.

[保存] ダイアログボックス

保存 - このボタンは、.protect ファイルに対するコメントおよび変更を保存します。



PC-DMIS 2018 R2以前で検証済みの測定ルーチンを開くと、認証は利用できません。測定ルーチンは通常の測定ルーチンと同様に開きます。

PC-DMIS プログラマーグループへのユーザーまたはグループの追加

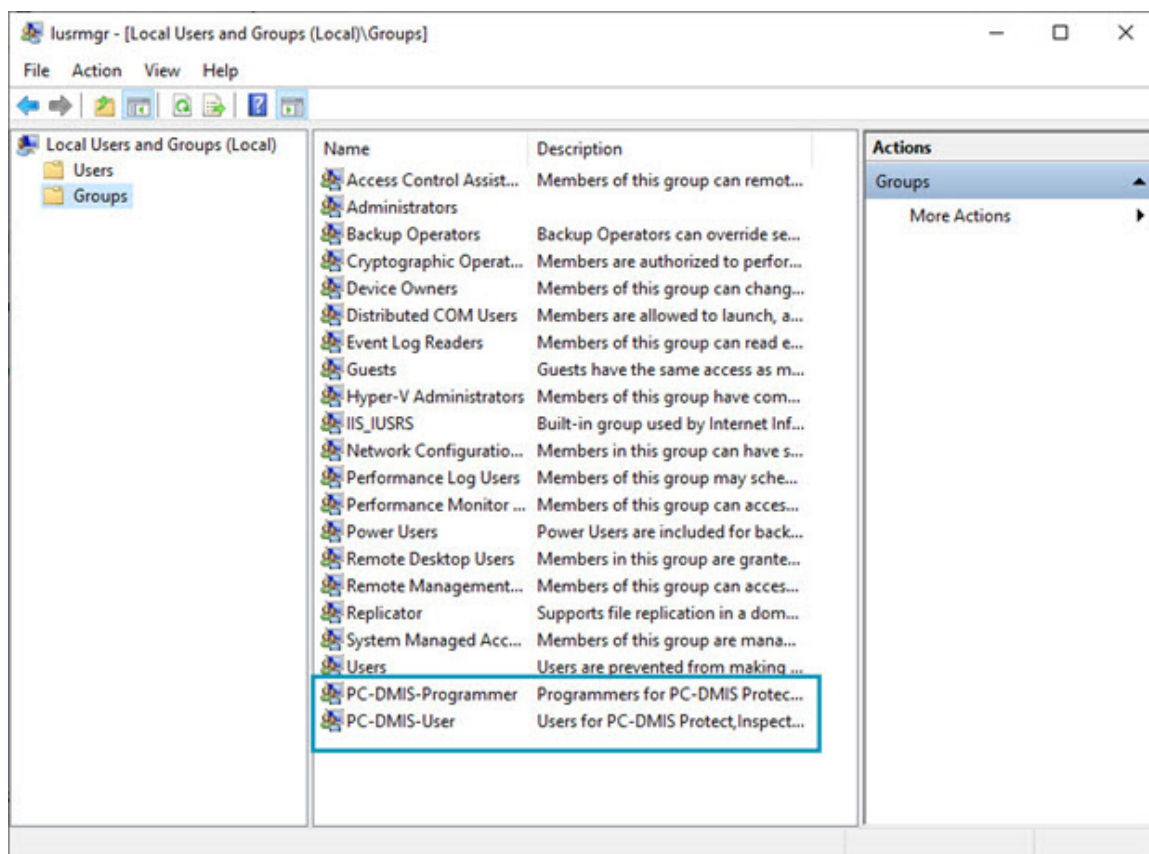
ユーザーまたはグループを PC-DMIS プログラマーグループに追加するには、次の手順に従います：



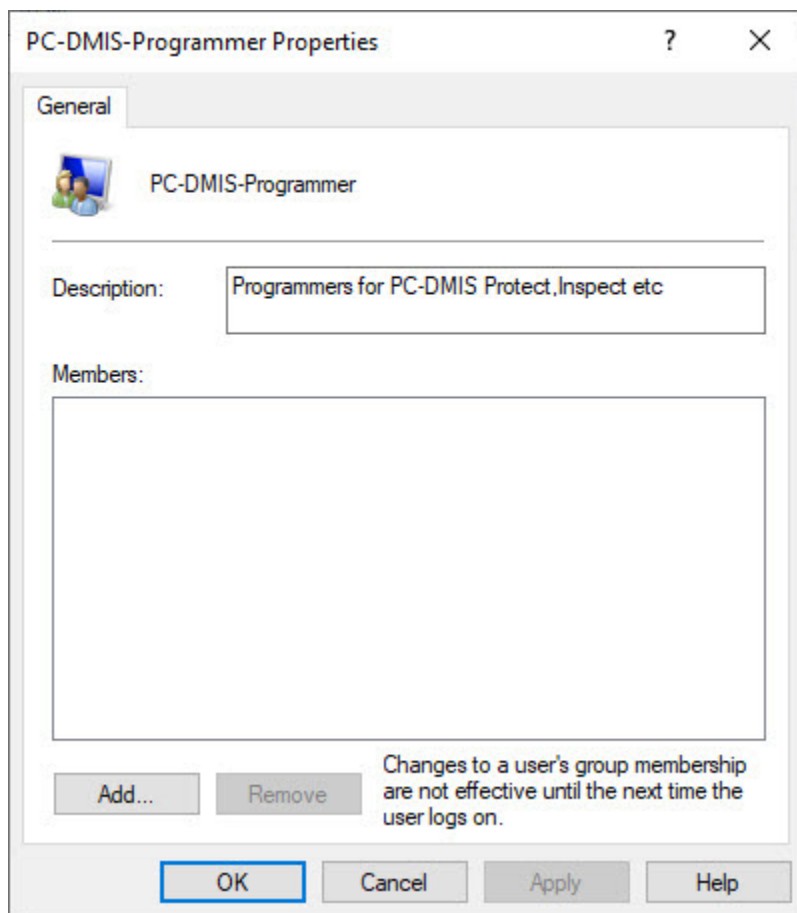
ユーザーまたはユーザーのグループを PC-DMIS プログラマーグループに追加すると、彼らは計測管理者になります。

前提条件：コンピュータへの管理者アクセス

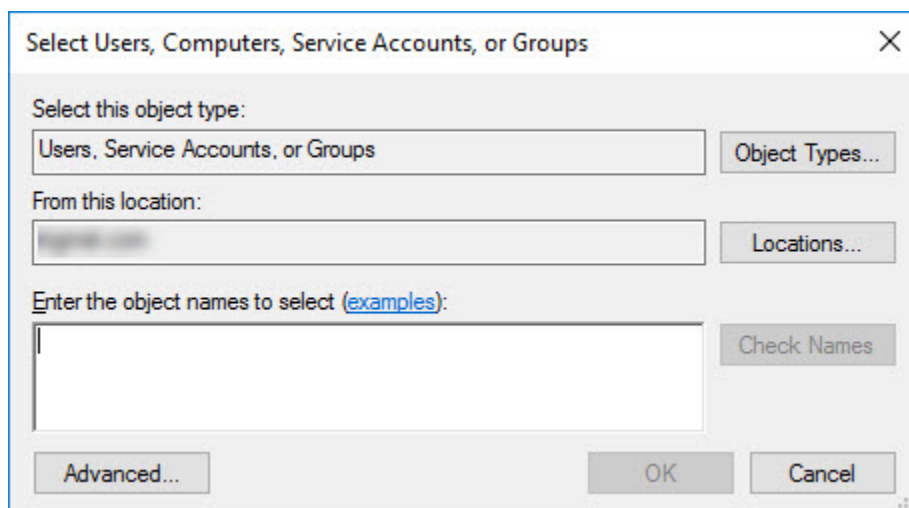
1. Protect Viewer (保護ビューワ)のインストーラ(PC-DMISインストーラに含まれています)をインストールします。これによって、コンピュータの [ローカルユーザーおよびグループ] フォルダーに [PC-DMIS ユーザー] および [PC-DMIS プログラマー] グループが作成されます。
2. [ローカルユーザーとグループの編集] ダイアログボックスを開きます。ユーザは2つの方法でこれを行うことができます：
 - タスクバーの検索ボックスに「ローカル」と入力し、結果から [ローカルユーザーとグループの編集] を選択します。
 - [実行] ダイアログボックスで Windows キーと R キーの組み合わせを押し、`lusrmgr.msc` と入力して、[OK] をクリックします。
3. 左ペーンで [グループ] をクリックしてコンピュータでグループの一覧を表示します。グループには PC-DMIS ユーザーやPC-DMIS プログラマーグループなどがあります。



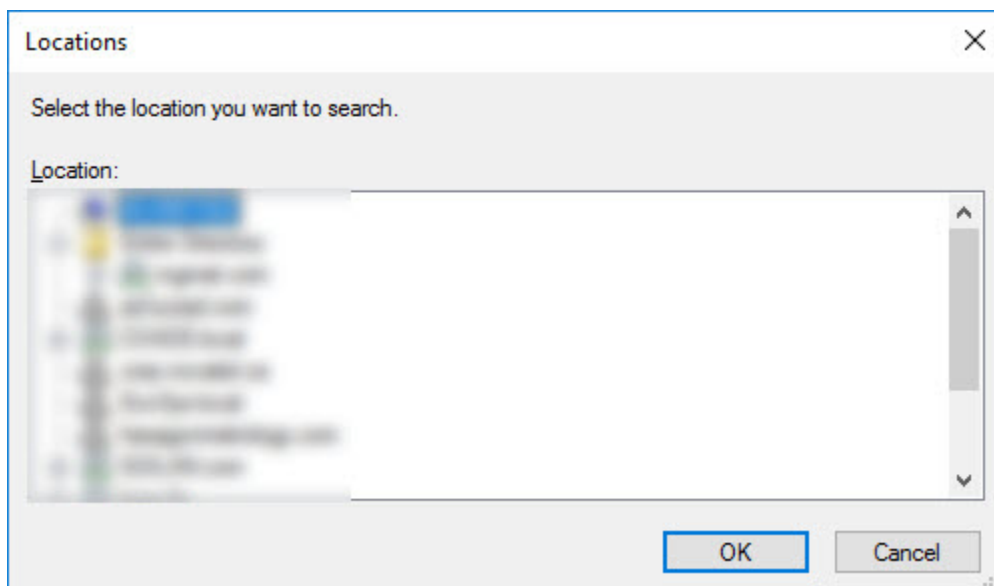
4. [PC-DMIS プログラマー] をダブルクリックして、[PC-DMIS プログラマーのプロパティ] ダイアログボックスを開きます。



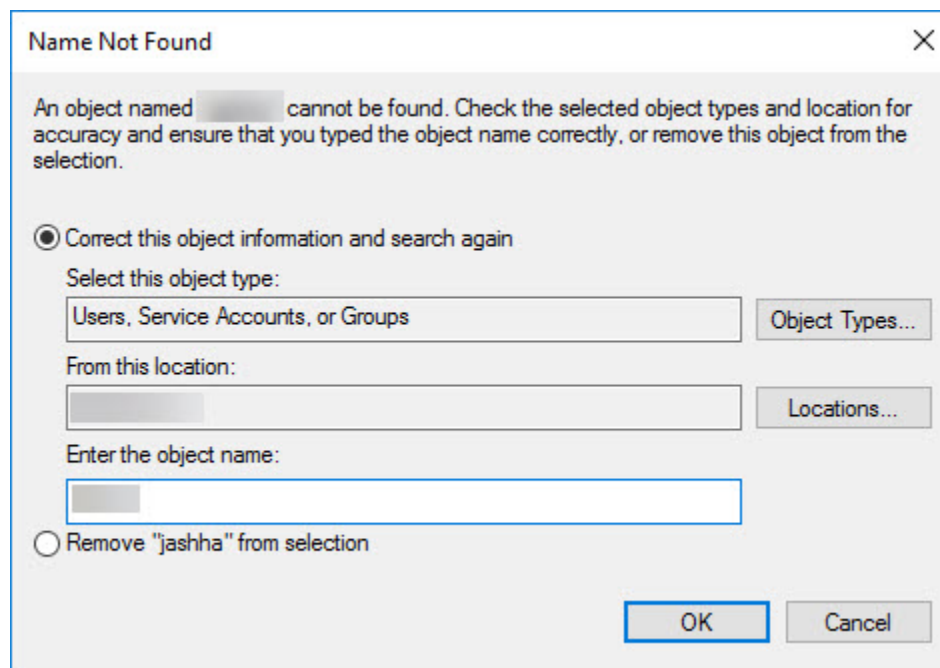
5. [追加] をクリックして [ユーザー、コンピュータ、サービスアカウントまたはグループの選択] ダイアログボックスを開きます。



6. [場所] をクリックして [場所] ダイアログボックスを開きます。アカウントをネットワークユーザーまたはローカルユーザーとして接続できます。



- アカウントをネットワークユーザーとして接続するには、ネットワークの場所を選択して [OK] をクリックします。
 - ローカルユーザーとしてアカウントを接続するには、コンピューター名を選択して [OK] をクリックします。
7. **[ユーザー、コンピュータ、サービスアカウントまたはグループの選択]** ダイアログボックスの **[選択するオブジェクト名を入力]** ボックスにユーザー名を入力し、**[名前の確認]** をクリックします。ユーザーアカウントが表示されず、自分のコンピュータが会社のネットワークの一部でない場合、ユーザーのネットワーク接続を確認します。ユーザーが会社のネットワークの外側にいる場合、VPNを介して接続します。
- ネットワークに接続している場合、ボックスにネットワーク名を示すエントリが表示されます。
 - ユーザーがネットワークに接続されていない場合、名前が見つかりません画面が表示されます。



ローカルグループまたはネットワークグループを PC-DMIS プログラマーグループに追加することもできます。これによって、そのローカルグループまたはネットワークグループ内のすべてのメンバーを PC-DMIS プログラマーグループに追加することができます。

8. **[OK]**をクリックして**[ユーザー、コンピュータ、サービスアカウントまたはグループの選択]**ダイアログボックスを閉じます。**[PC-DMIS プログラマーのプロパティ]**ダイアログボックスの**[メンバー]**エリアに、ステップ 6 で追加したユーザー名またはグループが表示されます。
9. **[OK]** をクリックして **[PC-DMIS プログラマーのプロパティ]** ダイアログボックスを閉じます。
10. 変更を適用するには、Windows からサインアウトして再度サインインする必要があります。

これで、ユーザーまたはグループが PC-DMIS プログラマーグループに正常に追加されました。同じ手順に従ってユーザーまたはグループを PC-DMIS ユーザーグループに追加します。



PC-DMIS ユーザーまたは PC-DMIS プログラマーグループに変更を加えるたびに、Windows からサインアウトして再度サインインし、変更を適用する必要があります。ネットワークグループを PC-DMIS ユーザーまたは PC-DMIS プログラマーグループに追加する場合、ネットワークに接続して後続の変更を適用します。


Azure AD (Microsoft Entra ID) ユーザーを PC-DMIS プログラマーグループにオフラインで追加する

Azure AD (Entra ID) ユーザーをアクティブディレクトリ接続または VPN 接続なしでローカルグループに追加するには、Windows の PowerShell を管理者モードで開き、コマンド: `net localgroup "PC-DMIS-Programmer" /add "AzureAD\user@domain.com"` と入力します。

一級認証


この手順は **PC-DMIS プログラマーグループ**のメンバーに適用されます。


測定ルーチンを認証、編集、表示または再認証するには次の手順に従います：

1. 測定ルーチンを新規作成します。
2. 要素、寸法およびその他の必要なエレメントを測定ルーチンに追加します。
3. [ファイル操作]ツールバーの[認証] ボタン () をクリックして、[ルーチンの認証]ダイアログボックスを開きます。
4. [コメント]ボックスにコメントを入力し、[認証]をクリックして測定ルーチンを認証します。PC-DMISは、すぐに保護モードで測定ルーチンを開きます。




PC-DMIS は編集ウィンドウの上部に鍵アイコンを表示して、測定ルーチンが編集できないことを示します。

5. 認定済の測定ルーチンを編集するには、[ファイル操作]ツールバーから [認定済のルーチンを編集] ボタン () をクリックします。PC-DMISは編集モードで測定ルーチンを開きます。
6. 測定ルーチンを編集します。

7. [ファイル操作] ツールバーから、[再認証] () ボタンをクリックして [改訂] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスには、[認定済のルーチン] カラムと [改訂済のルーチン] カラムが表示され、測定ルーチンの認証後に行われた変更を確認できます。

Certified Routine	Revised Routine
<p>CIR1 =FEAT/CONTACT/CIRCLE/DEFAULT,CARTESIAN,IN,LEAST,SQR</p> <p>THEO=D80,101,20><0,0,1>16,4</p> <p>ACTU=D80,101,20><0,0,1>16,4</p> <p>TARG=D80,101,20><0,0,1></p> <p>START ANG=0,END ANG=360</p> <p>ANGLE VEC=1,0,0></p> <p>DIRECTION=CCW</p> <p>SHOW FEATURE PARAMETERS=NO</p> <p>SHOW CONTACT PARAMETERS=YES</p> <p>NUMHITS=4,DEPTH=2,PITCH=0</p> <p>SAMPLE METHOD=SAMPLE_HITS</p> <p>SAMPLE HITS=0,SPACER=0</p> <p>FIND HOLE=DISABLED,ONERROR=NO,READ POS=NO</p> <p>SHOW HITS=NO</p>	<p>CIR1 =FEAT/CONTACT/CIRCLE/DEFAULT,CARTESIAN,IN,LEAST,SQR</p> <p>THEO=D80,101,20><0,0,1>16,4</p> <p>ACTU=D80,101,20><0,0,1>16,4</p> <p>TARG=D80,101,20><0,0,1></p> <p>START ANG=0,END ANG=360</p> <p>ANGLE VEC=1,0,0></p> <p>DIRECTION=CCW</p> <p>SHOW FEATURE PARAMETERS=NO</p> <p>SHOW CONTACT PARAMETERS=YES</p> <p>NUMHITS=4,DEPTH=2,PITCH=0</p> <p>SAMPLE METHOD=SAMPLE_HITS</p> <p>SAMPLE HITS=0,SPACER=0</p> <p>FIND HOLE=DISABLED,ONERROR=NO,READ POS=NO</p> <p>SHOW HITS=NO</p>
<p>CYL2 =FEAT/CONTACT/CYLINDER/DEFAULT,CARTESIAN,IN,LEAST,SQR</p> <p>THEO=121,80,0><0,0,1>16,4,20</p> <p>ACTU=121,80,0><0,0,1>16,4,20</p> <p>TARG=121,80,0><0,0,1></p> <p>START ANG=0,END ANG=360</p> <p>ANGLE VEC=1,0,0></p> <p>DIRECTION=CCW</p> <p>SHOW FEATURE PARAMETERS=NO</p> <p>SHOW CONTACT PARAMETERS=YES</p> <p>NUMHITS=4,NUMLEVELS=2,DEPTH=0,END OFFSET=0,PITCH=0</p> <p>SAMPLE METHOD=SAMPLE_HITS</p> <p>SAMPLE HITS=0,SPACER=0</p> <p>FIND HOLE=DISABLED,ONERROR=NO,READ POS=NO</p> <p>SHOW HITS=NO</p>	<p>CYL2 =FEAT/CONTACT/CYLINDER/DEFAULT,CARTESIAN,IN,LEAST,SQR</p> <p>THEO=200,60,0><0,0,1>16,4,20</p> <p>ACTU=200,60,0><0,0,1>16,4,20</p> <p>TARG=200,60,0><0,0,1></p> <p>START ANG=0,END ANG=360</p> <p>ANGLE VEC=1,0,0></p> <p>DIRECTION=CCW</p> <p>SHOW FEATURE PARAMETERS=NO</p> <p>SHOW CONTACT PARAMETERS=YES</p> <p>NUMHITS=4,NUMLEVELS=2,DEPTH=0,END OFFSET=0,PITCH=0</p> <p>SAMPLE METHOD=SAMPLE_HITS</p> <p>SAMPLE HITS=0,SPACER=0</p> <p>FIND HOLE=DISABLED,ONERROR=NO,READ POS=NO</p> <p>SHOW HITS=NO</p>
	<p>PLN1 =FEAT/CONTACT/PLANE/DEFAULT,CARTESIAN,NON,LEAST,SQR</p> <p>THEO=120,25,632,0><0,0,1></p> <p>ACTU=120,25,632,0><0,0,1></p> <p>TARG=120,25,632,0><0,0,1></p> <p>ANGLE VEC=1,0,0>SQUARE</p> <p>SHOW FEATURE PARAMETERS=NO</p> <p>SHOW CONTACT PARAMETERS=YES</p> <p>NUMHITS=2,NUMROWS=2</p> <p>SPACER=0</p> <p>SHOW HITS=NO</p>
	<p>CIR2 =FEAT/CONTACT/CIRCLE/DEFAULT,CARTESIAN,IN,LEAST,SQR</p> <p>THEO=130,0,50><0,0,1>28</p> <p>ACTU=130,0,50><0,0,1>28</p> <p>TARG=130,0,50><0,0,1></p> <p>START ANG=0,END ANG=360</p> <p>ANGLE VEC=1,0,0></p> <p>DIRECTION=CCW</p> <p>SHOW FEATURE PARAMETERS=NO</p> <p>SHOW CONTACT PARAMETERS=YES</p> <p>NUMHITS=6,DEPTH=2,PITCH=0</p> <p>SAMPLE METHOD=SAMPLE_HITS</p> <p>SAMPLE HITS=0,SPACER=0</p> <p>FIND HOLE=DISABLED,ONERROR=NO,READ POS=NO</p> <p>SHOW HITS=NO</p>
	<p>DIM COAX1=COAXIALITY FROM CYLINDER CYL2 TO THE ORIGIN EXTENDLENGTH=0.000</p> <p>UNITS=IN, \$</p> <p>GRAPH=OFF TEXT=OFF MULT=10.00 OUTPUT=BOTH</p> <p>AX NOMINAL +TOL -TOL MEAS DEV OUTTOL</p> <p>M 0.000 0.004 0.009 16.441 16.441 16.437 -----></p>



User:

Comments:

[改訂] ダイアログボックス


8. 変更を確認した後で、[承認]をクリックして測定ルーチンを再認証します。PC-DMISは、認証済の測定ルーチンに変更をすぐに追加し、再認証済の測定ルーチンを保護モードで開きます。




認証用の測定ルーチンを送信すると、PC-DMIS は .protect ファイルを生成して割り当てます。このファイルは変更を追跡し、測定ルーチンの認証プロセスの現在のステータスを変更および保持します。 .protect ファイルを移動または削除すると、ユーザーは追跡されたすべての変更を失い、PC-DMIS プログラマーグループのメンバーは測定ルーチンを再認証できなくなります。


二級認証

測定ルーチンを認証するには、次の手順に従います：

1. PC-DMIS ユーザーグループのメンバーとして：
 - a. 測定ルーチンを新規作成します。
 - b. 要素、寸法およびその他の必要なエレメントを測定ルーチンに追加します。
 - c. [ファイル操作] ツールバーの[送信] ボタン () をクリックして、[ルーチンを送信] ダイアログボックスを開きます。[コメント] ボックスにコメントを入力し、[送信] をクリックして、認証用の測定ルーチンを送信します。



[ファイル操作] ツールバーから送信を取り消すには、[送信の取り消し] ボタン () をクリックして、[ルーチンの送信の取り消し] ダイアログボックスを開きます。[コメント] ボックスにコメントを入力し、[送信をキャンセル] をクリックします。


- d. 認証のために測定ルーチンを送信した後、[ファイル | 終了] メニューオプションを選択します。
2. PC-DMIS プログラマーグループのメンバーとして：
 - a. 送信された測定ルーチンを開きます。
 - b. [ファイル | 操作 | 認証] メニューオプションを選択するか、または [ファイル操作] ツールバーから [認証] ボタン () をクリックして [ルーチンの認証] ダイアログボックスを開きます。

- c. [コメント]ボックスにコメントを入力し、[認証]をクリックして測定ルーチンを認証します。PC-DMISは、すぐに保護モードで測定ルーチンを開きます。




認証後、PC-DMIS は常にすべてのユーザーについて保護モードで測定ルーチンを開きます。




測定ルーチンを再認証するには、次の手順に従います：



1. PC-DMIS ユーザーグループのメンバーとして：
 - a. 認証された測定ルーチンを開きます。PC-DMISは、保護モードで測定ルーチンを開きます。
 - b. [ファイル操作]ツールバーから、[認証済ルーチンの編集] ボタン () をクリックして、測定ルーチンを編集モードで開きます。






ユーザーが PC-DMIS プログラマーグループのメンバーであり、同じ測定ルーチンを開く場合、PC-DMIS はユーザーが測定ルーチンの作成者ではなく、測定ルーチンが認証のために送信されなかったことを示すメッセージを表示します。

- c. 測定ルーチンを編集します。
- d. [ファイル操作]ツールバーから、[送信] ボタン () をクリックして、[改訂を送信] ダイアログボックスを開きます。[コメント]ボックスにコメントを入力し、[改訂を送信]をクリックして、再認証用の測定ルーチンを送信します。

- 
 送信を取り消すには、[ファイル操作] ツールバーから、[送信の取り消し] ボタン () をクリックして、[改訂の取り消し] ダイアログボックスを開きます。[コメント]ボックスにコメントを入力し、[改訂をキャンセル]をクリックします。
- 認証済の測定ルーチンを表示するには、[ファイル操作] ツールバーから [認証済を表示] ボタン () をクリックして、認証済の測定ルーチンを保護モードで開きます。

- 再認証用の測定ルーチンを送信した後、[ファイル | 終了] メニューオプションをクリックします。
- PC-DMIS プログラマーグループのメンバーとして :
 - 測定ルーチンを開きます。PC-DMISは、保護モードで測定ルーチンを開きます。
 - [ファイル操作] ツールバーから [認証済ルーチンを編集] ボタン () をクリックし、[測定ルーチンを保護モードで開き、ファイル操作] ツールバーで [認証済みを表示]、[再認証]、[拒否] および [削除] オプションを有効にします。
 - [ファイル操作] ツールバーから、[再認証] ボタン () をクリックして [改訂] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスには、[認定済のルーチン] カラムと [改訂済のルーチン] カラムが表示され、測定ルーチンの認証後に行われた変更を確認できます。

- 
 変更を拒否するには、[ファイル操作]ツールバーから、[拒否] ボタン () をクリックします。
- 認証後にすべての変更を取り消すには、[ファイル操作]ツールバーから、[拒否] ボタン () をクリックします。

Certified Routine	Revised Routine
CIR1 =FEAT/CNTACT/CIRCLE/DEFAULT,CARTESIAN,UNLEAST_SQR THEOQ=80,101,20>+0.0,1>16.4 ACTU=80,101,20>+0.0,1>16.4 TARGQ=80,101,20>+0.0,1> START ANG=0,END ANG=360 ANGLE VEC=+1.0,0> DIRECTION=CCW SHOW FEATURE PARAMETERS=NO SHOW CONTACT PARAMETERS=YES NUMHITS=4,DEPTH=2,PITCH=0 SAMPLE METHOD=0,SAMPLE_HITS SAMPLE HITS=0,SPACER=0 FIND HOLE=DISABLED,ONERROR=NO,READ POS=NO SHOW HITS=NO	CIR1 =FEAT/CNTACT/CIRCLE/DEFAULT,CARTESIAN,UNLEAST_SQR THEOQ=80,101,20>+0.0,1>16.4 ACTU=80,101,20>+0.0,1>16.4 TARGQ=80,101,20>+0.0,1> START ANG=0,END ANG=360 ANGLE VEC=+1.0,0> DIRECTION=CCW SHOW FEATURE PARAMETERS=NO SHOW CONTACT PARAMETERS=YES NUMHITS=4,DEPTH=2,PITCH=0 SAMPLE METHOD=0,SAMPLE_HITS SAMPLE HITS=0,SPACER=0 FIND HOLE=DISABLED,ONERROR=NO,READ POS=NO SHOW HITS=NO
CYL2 =FEAT/CNTACT/CYLINDER/DEFAULT,CARTESIAN,UNLEAST_SQR THEOQ=121.60,0>+0.0,1>16.4,20 ACTU=121.60,0>+0.0,1>16.4,20 TARGQ=121.60,0>+0.0,1> START ANG=0,END ANG=360 ANGLE VEC=+1.0,0> DIRECTION=CCW SHOW FEATURE PARAMETERS=NO SHOW CONTACT PARAMETERS=YES NUMHITS=4,NUMLEVELS=2,DEPTH=0,END OFFSET=0,PITCH=0 SAMPLE METHOD=0,SAMPLE_HITS SAMPLE HITS=0,SPACER=0 FIND HOLE=DISABLED,ONERROR=NO,READ POS=NO SHOW HITS=NO	CYL2 =FEAT/CNTACT/CYLINDER/DEFAULT,CARTESIAN,UNLEAST_SQR THEOQ=200.60,0>+0.0,1>16.4,20 ACTU=200.60,0>+0.0,1>16.4,20 TARGQ=200.60,0>+0.0,1> START ANG=0,END ANG=360 ANGLE VEC=+1.0,0> DIRECTION=CCW SHOW FEATURE PARAMETERS=NO SHOW CONTACT PARAMETERS=YES NUMHITS=4,NUMLEVELS=2,DEPTH=0,END OFFSET=0,PITCH=0 SAMPLE METHOD=0,SAMPLE_HITS SAMPLE HITS=0,SPACER=0 FIND HOLE=DISABLED,ONERROR=NO,READ POS=NO SHOW HITS=NO
	PLN1 =FEAT/CNTACT/PLANE/DEFAULT,CARTESIAN,NONE,LEAST_SQR THEOQ=120.25,632.0>+0.0,1> ACTU=120.25,632.0>+0.0,1> TARGQ=120.25,632.0>+0.0,1> ANGLE VEC=+1.0,0> SQUARE SHOW FEATURE PARAMETERS=NO SHOW CONTACT PARAMETERS=YES NUMHITS=2,NUMROWS=2 SPACER=0 SHOW HITS=NO
	CIR2 =FEAT/CNTACT/CIRCLE/DEFAULT,CARTESIAN,UNLEAST_SQR THEOQ=130.0,50>+0.1,0>28 ACTU=130.0,50>+0.1,0>28 TARGQ=130.0,50>+0.1,0> START ANG=0,END ANG=360 ANGLE VEC=+1.0,0> DIRECTION=CCW SHOW FEATURE PARAMETERS=NO SHOW CONTACT PARAMETERS=YES NUMHITS=4,DEPTH=2,PITCH=0 SAMPLE METHOD=0,SAMPLE_HITS SAMPLE HITS=0,SPACER=0 FIND HOLE=DISABLED,ONERROR=NO,READ POS=NO SHOW HITS=NO
	DIM CONA1=CONAULTY FROM CYLINDER CYL2 TO THE ORIGIN EXTENDLENGTH=0.000 UNITS=IN, S GRAPH=OFF TEXT=OFF MULT=10.00 OUTPUT=BOTH AX NOMINAL +TOL -TOL MEAS DEV OUTTOL M 0.000 0.004 0.000 16.441 16.441 16.437 ----->

User:
 Comments:

[改訂] ダイアログボックス

- d. 変更を確認した後で、[コメント]ボックスにコメントを入力し、[承認]をクリックして測定ルーチンを再認証します。PC-DMISは、すぐに保護モードで測定ルーチンを開きます。



認証用の測定ルーチンを送信すると、PC-DMIS は .protect ファイルを生成して割り当てます。このファイルは変更を追跡し、測定ルーチンの認証プロセスの現在のステータスを変更および保持します。 .protect ファイルを移動または削除すると、ユーザーは追跡されたすべての変更を失い、PC-DMIS プログラマーグループのメンバーは測定ルーチンを再認証できなくなります。


認定済の測定ルーチンの編集


ローカル環境



ユーザーが測定ルーチンの作成者または PC-DMIS ユーザーグループのメンバーである場合にのみ、認定済測定ルーチンを編集できます。

認定済の測定ルーチンを編集するには、次の手順に従います：

1. ユーザーが PC-DMIS ユーザーグループのメンバーまたは認証済み測定ルーチンの作成者である場合、PC-DMIS は保護モードで認証済み測定ルーチンを開きます。
2. [ファイル操作] ツールバーから、[認定済ルーチンの編集] ボタン () をクリックして、測定ルーチンを編集モードで開きます。
3. 測定ルーチンに対して必要な編集を行います。

ユーザーが PC-DMIS プログラマーグループのメンバーであり、同じ測定ルーチンを開く場合、PC-DMIS はユーザーが測定ルーチンの作成者ではなく、測定ルーチンが認証のために送信されなかったことを示すメッセージを表示します。但し、PC-DMIS ユーザーグループのメンバーが認証のために測定ルーチンを送信している場合、[認定済ルーチンの編集] ボタン () をクリックすると測定ルーチンが保護モードで開き、[再認証]、[拒否] および [削除] ボタンが [ファイル操作] ツールバーで有効になります。





PC-DMIS プログラマーまたは PC-DMIS ユーザーグループのいずれかの一部でないメンバーでは、PC-DMIS は常に認証済み測定ルーチンを保護モードで開きます。保護モードではユーザーは測定ルーチンしか実行できません。このモードを無効にすることはできません。保護モードについては、PC-DMIS Core ドキュメントにある「保護モードを使用して測定ルーチンを編集から保護する」トピックを参照してください。

Teamcenter 統合化環境



ユーザーは自分が PC-DMIS プログラマーグループのメンバーである場合にのみ、認証済み測定ルーチンを編集できます。

認定済の測定ルーチンを編集するには、次の手順に従います：

1. 測定ルーチンを開きます。Teamcenter から測定ルーチンを開く方法については、PC-DMIS DCI ドキュメントの「ステップ 2 - 測定ルーチンを開く」トピックを参照してください。
2. [ファイル操作] ツールバーから、[認証済みルーチンの編集] ボタン () をクリックして、測定ルーチンを編集モードで開きます。
3. 測定ルーチンに必要な編集を行って、以下の一つを実行します：
 - **変更の保存** – [ファイル | 保存] をクリックして変更を保存します。測定ルーチンは未認証のままです。保存された変更を表示または使用するには、編集モードで測定ルーチンを開く必要があります。
 - **測定ルーチンの再認証**
 - A. [再認証] ボタン () をクリックして、[改訂] ダイアログボックスを開きます。[認証済みルーチン] カラムと[改訂済みルーチン] カラムを比較して変更を確認します。
 - B. 必要に応じてコメントを入力し、[承認] をクリックして [Teamcenter 名前を付けて保存] ダイアログボックスを開きます。

[Teamcenter 名前を付けて保存] ダイアログボックスにおけるオプションについては、PC-DMIS DCI ドキュメントの「ステップ 4 - 測定ルーチンの保存」トピックを参照してください。
 - C. 必要なフィールドを選択して [OK] をクリックします。


.protect ファイルを認証および表示する手順

下記の手順で測定ルーチンが認証され、.protect ファイルが生成されます。Protect Viewerアプリケーションを使用すると、このファイルを表示することができます。Protect Viewerアプリケーションについては、PC-DMIS ヘルプライブラリページを参照してください。PC-DMIS ヘルプの特定のバージョンを選択して、保護ビューワドキュメントに移動します。

前提条件:

- 測定ルーチンを認証するには、ユーザーは PC-DMIS プログラマーグループのメンバーであり、Protect Viewerのライセンスが有効になっている必要があります。
- PRG.protectファイルを表示するには、コンピュータに「保護ビューワ」アプリケーションがインストールされている必要があります。

PRG.protect ファイルを認証して表示するには、次の手順に従います：

- 測定ルーチンを新規作成します。
- [ファイル | 操作 | 認証] メニューオプションを選択するか、または [ファイル操作] ツールバーから (表示 | ツールバー | ファイル操作)、[認証] ボタン () をクリックして [ルーチンの認証] ダイアログボックスを開きます。
- [コメント] ボックスにコメントを入力し、[認証] をクリックします。
 - ローカル環境** - PC-DMIS は測定ルーチンを認証して保存し、.PRG.protect ファイルを測定ルーチンと同じフォルダーに生成します。ファイル名は <測定ルーチンのファイル名>.PRG.protect です。ここで、<測定ルーチンのファイル名> は測定ルーチンのファイル名です。デフォルトのフォルダーの場所は以下です：
"C:\Users\Public\Documents\Hexagon\PC-DMIS\2026.1"。
 - Teamcenter 統合化環境** - PC-DMIS は [Teamcenter 名前を付けて保存] ダイアログボックスを開きます。必要なオプションを選択して [OK] をクリックします。PC-DMIS は測定ルーチンを認証して保存し、.PRG.protect ファイルを Teamcenter データベースに生成します。

[Teamcenter 名前を付けて保存] ダイアログボックスにおけるオプションについては、PC-DMIS DCI ドキュメントの「ステップ 4 - 測定ルーチンの保存」トピックを参照してください。



測定ルーチンのファイル名が ABC.PRG で、.protectファイルの名前が ABC.PRG.protect であるとします。

4. .protect ファイルがあるフォルダーに移動し、ファイルをダブルクリックするか、または [開く] を右クリックして、Protect Viewer アプリケーションでファイルを開きます。

言語の変更

ファイル|言語メニューは、製品で支援されている言語を表示します。チェックマークは、現在の言語を示します。新しい言語に切り替えるには、ファイル |言語を選択して、目的の言語を選択します。PC-DMISは自動的にユーザの仕事を保存し、ソフトウェアを終了してから、再起動します。再起動後、PC-DMISは新しく選択した言語で作動します。

言語ヘルプの内容



PC-DMISは、メイン・インストレーションのプロセスに支援された言語用のユーザ・インターフェース資源をすべて自動的にインストールします。ただし、英語以外のオフライン・ヘルプ・ファイルの内容を表示するには、個別にそれをインストールする必要があります。オンライン・ヘルプの内容はインターネット経由で入手できます。

オフラインの言語ヘルプ・ファイルは必要に応じて言語パックフォルダーに移動し、適切な言語の実行ファイルを実行することでインストール可能です。

言語ヘルプファイルをインストールするには：

1. PC-DMIS インストーラのメインダウンロードの言語フォルダに移動します。
(<Product_Installer_Folder>\lang)。
2. 目的の言語パック実行ファイルを実行して言語ヘルプファイルをインストールします。

これにより、PC-DMISインストールの下の言語ディレクトリに**helpcenter**フォルダがインストールされます。

Teamcenterへの接続

[ファイル| Teamcenter] メニューオプションを使って、Teamcenter のソフトウェアへの接続を有効または無効にすることができます。Teamcenterはシーメンスによって開発されたPLM (製品寿命管理) データベースパッケージです。



[ファイル | Teamcenter] メニューが表示されるようにするには、Teamcenterオプションを PC-DMIS ライセンスで有効にする必要があります。

Teamcenterメニューには以下のオプションなどがあります:

- **オン** - このオプションを選択して Teamcenter との接続を確立します。このオプションを選択すると、PC-DMIS は [Teamcenter ログイン] ダイアログボックスを開きます。これに Teamcenter のユーザー名とパスワードを入力することができます。接続が正常に行われたら、PC-DMIS は「Teamcenter に正常に接続されました」というメッセージを表示します。

正常な接続によって、標準の [名前を付けて保存 および [開く] ダイアログボックスが Teamcenter で使用するように変化します。接続が正常に行われない場合、PC-DMIS はデフォルトの [オフ] になり、標準の [名前を付けて保存] および [開く] ダイアログボックスを使用します。

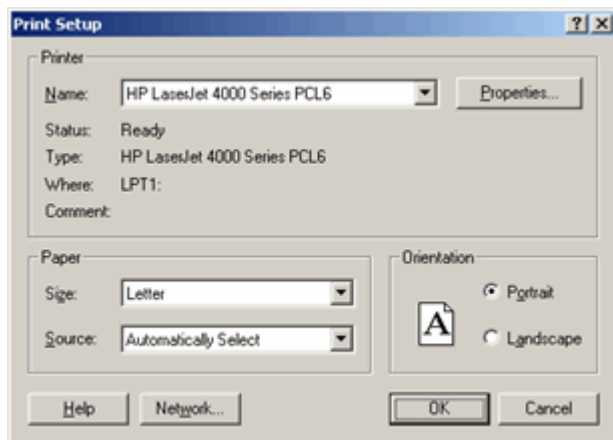
- **オフ** - このオプションを選択して PC-DMIS を Teamcenter から切断します。これで PC-DMIS は逆に標準の [名前を付けて保存 および 開く] ダイアログボックスに戻ります。
- **設定** - このオプションを選択して [Teamcenter 設定] ダイアログボックスを開きます。

Teamcenter の使用については、PC-DMIS DCI ドキュメントの「Teamcenter の使用」トピックを参照してください。

プリンタ オプションの設定

[プリンターの設定] ボタンと [ファイル印刷 | プリンターの設定] メニュー項目で、標準的な Windows の印刷設定ダイアログ ボックスにアクセスできます。このダイアログ

ボックスにより、入手可能なプリンター間での切り換え、印刷用紙サイズとページの向きについての選択、及び他のプリンター プロパティへのアクセスが可能です。その後、PC-DMISは、これらの選択されたオプションに基づき、編集ウィンドウ、検査レポート、またはグラフィックス表示ウィンドウを印刷します。



A Sample Print Setup Dialog Box

このダイアログ ボックスと入手可能なオプションに関する情報については、お手持ちのWindowsオペレーション システムに付随のヘルプ ファイルをご覧ください。さらに高度の、プリンター特定のプロパティについては、お手持ちのプリンター専用の文書を参照する必要があるか、と思われます。

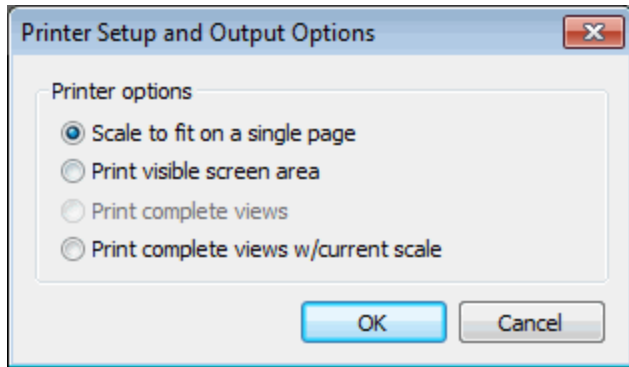
グラフィックの表示ウィンドウの印刷

PC-DMISはグラフィックの表示ウィンドウの現在の内容をプリンターに送信することができます。[ファイル|印刷|グラフィックウィンドウの印刷]を選択して、Windows印刷の設定ダイアログボックスを表示します。OKをクリックして、ダイアログボックスに表示されたプリンターにレポートを送信します。

印刷前に、出力オプションを設定し、印刷作業のプレビューをすることができます。

グラフィックの表示ウィンドウ用の出力設定とプリンターオプション設定

[ファイル | 印刷 | グラフィックウィンドウの印刷設定] メニューオプションを選択すると、[プリンタ設定および出力オプション]ダイアログ ボックスが表示されます。



[プリンター設定と出力オプション] ダイアログボックス

ダイアログ ボックスを使用してプリンターおよび様々な表示オプションを設定します。**[プリンターオプション]**エリアで使用可能なオプションでは、印刷されるグラフィック表示のタイプを選択できます。以下が含まれます。

1 ページに合わせて表示 - このオプションでは、任意のグラフィックイメージを1つのページに合わせて表示します。

可視な画面領域を印刷 - このオプションは、現在表示されている画面領域のみを印刷します。要素をズームインした場合、パーツ全体ではなく画面に表示されている部分のみが印刷されます。

ビュー全体を印刷 - このオプションでは、**[ビューの設定]**ダイアログ ボックスの**[レイアウト]**エリアで定義された各画像を、ページごとに印刷します。例えば、グラフィックス表示ウィンドウ上にZ+画像とY-画像が表示されている場合、PC-DMISは、Z+画像を1 ページに、そして、Y-画像を他の1 ページに、これらの画像をそれぞれ別々の2 ページに印刷します。

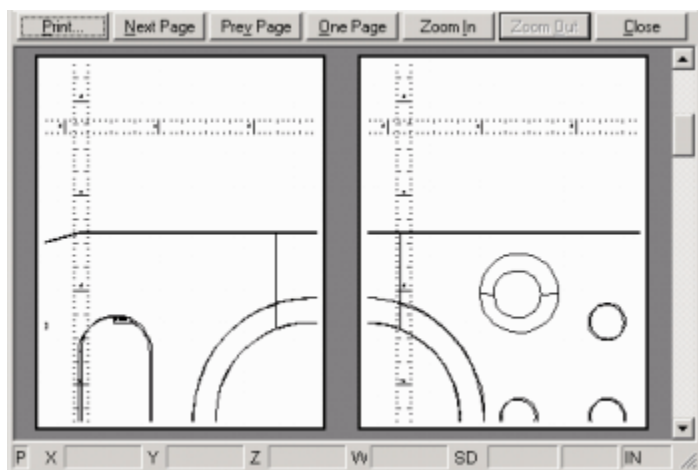
ビュー全体を現在のスケールで印刷 - このオプションは、画像が現在のスケールで印刷されることを除き、**[ビュー全体を印刷]**オプションと同様に機能します。画像にズームインしている場合、PC-DMISは画像全体を印刷しますが、画像は複数ページに分割されます。

OK ボタンをクリックして変更を保存します。

印刷作業のプレビュー

ファイル | 印刷 | グラフィックウィンドウ印刷プレビューは、グラフィック表示ウィンドウから印刷されたものをプレビューします。印刷プレビュー ウィンドウが現れます。

。



グラフィック表示ウィンドウの内容を表示する印刷プレビューウィンドウ

ウィンドウ上部のボタンは以下の機能を行います：

印刷ボタンは、標準の印刷セットアップダイアログボックスを開き、印刷ジョブをプリンターに送ることができます。

次ページと**前ページ**ボタンを使うと、複数ページの印刷ジョブの各ページを順番に表示することができます。

1 ページまたは**2 ページ**トグル ボタンでは、印刷プレビュー ウィンドウ上に一度に表示するページ数を決定できます。

ズームインおよび**ズームアウト**ボタンでは、印刷プレビュー ウィンドウ上で一つのページを素早く表示させることができます。このズーム操作は、プリンターへ送られる印刷内容に影響しません。

閉じるボタンは、印刷プレビュー ウィンドウを閉じます。

編集ウィンドウの印刷

以下の方法で、編集ウィンドウの内容をお手持ちのプリンターに送ることができます：

- **[ファイル | 印刷 | 編集ウィンドウの印刷]**を選択してください。
- **編集ウィンドウ ツール バー**にある **印刷アイコン**をクリックして下さい。

- F4を押して下さい。

印刷作業のプレビュー

プリントアウトがどのようなになるかプレビューするには、[ファイル | 印刷 | 編集ウィンドウの印刷プレビュー]を選択してください。印刷プレビュー ウィンドウが現れます。



編集ウィンドウの内容を表示する印刷プレビューウィンドウ

ウィンドウ上部のボタンは以下の機能を行います：

- 印刷ボタンは標準の印刷設定ダイアログボックスを開きます。これによって、ユーザーは印刷ジョブをプリンターに送ることができます。

- **次ページと前ページボタン**を使うと、複数ページの印刷ジョブの各ページを順番に表示することができます。
- **1ページまたは2ページトグルボタン**はプレビュー ウィンドウ上に一度に表示されるページ数を決定します。
- **ズームインおよびズームアウトボタン**では、印刷プレビュー ウィンドウ上で一つのページを素早く表示させることができます。このズーム操作は、プリンタへ送られる印刷内容に影響しません。
- **閉じるボタン**は、印刷プレビュー ウィンドウを閉じます。



編集ウィンドウの内容を印刷するときは、(Courier Newなど) TrueTypeフォントを使用する必要があります。そうしないと文字や線が期待通りに並ばない可能性があります。編集ウィンドウとレポートで使用されるフォントを変更するには、「ユーザー・インタフェースの使用」章にある「ユーザー・インタフェースのフォントをカスタマイズすること」を参照してください。

サマリーモードでの印刷

要約モードで[編集]ウィンドウを表示するとき、編集ウィンドウに表示されているとおりに印刷されます。編集ウィンドウでグループが折りたたまれている場合、そのグループは折りたたまれていると表示されます。

出力オプションの設定

レポートの出力に使用するのと同じ**出力設定**ダイアログボックスから、編集ウィンドウの印刷タスクの出力オプションを設定できます。出力設定ダイアログボックスでのオプションについて詳しくは、「レポートウィンドウでの出力およびプリンタオプションの設定」を参照してください。

プリンタの変更、ページ方向の設定またはその他のプリンタオプションの変更を行うには、**ファイル | 印刷 | プリンタ設定**メニュー項目を選択して下さい。詳しくは、「プリンタオプションの設定」を参照してください。

レポートウィンドウの印刷

PC-DMISはレポートウィンドウの検査レポートをさまざまな出力デバイスまたはファイルに送信します。PC-DMISは多種多様なプリンタやプロッタをサポートします。ハ

ードウェアの互換性に関する質問は、PC-DMISの販売代理店へお問い合わせください。

検査レポートを印刷するには、**ファイル | 印刷 | レポートウィンドウの印刷設定**メニューオプションを選択します。印刷する前に、**[ファイル | 印刷 | レポートウィンドウ印刷設定]**を選択して印刷ジョブの出力オプションを設定できます。

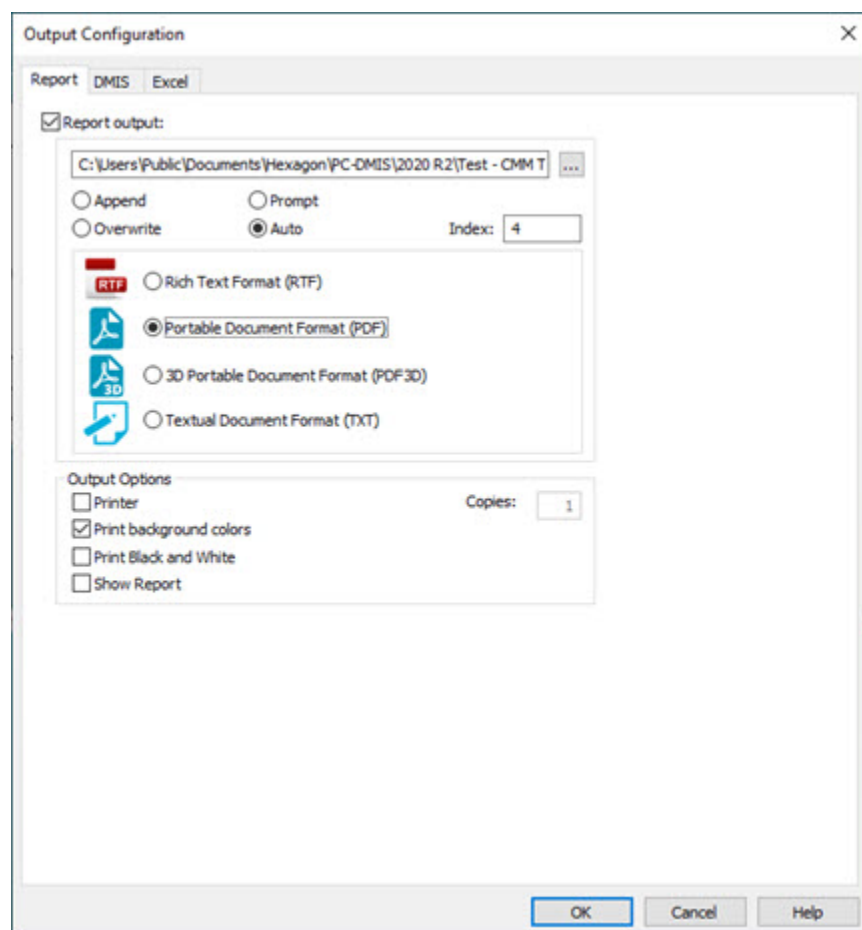


テキストのみのレポートを印刷している場合、True Typeフォント（Courier Newなど）を使用してください。それ以外の場合は文字や線が期待通りに並ばない可能性があります。テキストのみのレポートで使用するフォントを変更する必要がある場合、レポートテンプレートで使用するTextReportObjectのフォントプロパティを変更します。

レポートウィンドウの出力およびプリンタオプションの設定

ファイル | 印刷 | レポートウィンドウ印刷セットアップメニューオプションを選択すると**[出力設定]**ダイアログボックスが表示されます。

基本的なファイルオプションの使用



[出力設定]ダイアログボックス

このダイアログ ボックスを使用してPC-DMISに検査レポートを送信したい場所を伝えます。ダイアログボックスには以下のタブが含まれ、これらを使用して DMISファイル、Microsoft Excel ファイル、または以下の組み合わせとしてファイル、プリンター、出力に宛ててレポートを送信することができます。

レポート - レポート出力をファイル(.rtf、.pdfまたは.txt)またはプリンターに送信します。このタブの使用については、「RTF、PDF、TXTまたはデフォルトプリンターへの出力」を参照してください。このタブでの式を使用したファイルへの出力については「式を使用したファイルへの出力」を参照してください。

DMIS - レポート出力をDMIS出力ファイル (.dmo) に送信します。このタブに関する詳細は「DMISファイルに出力」を参照してください。

Excel - レポート出力を Excel ファイル (.xls、xlsx、または .csv) に送信します。このタブに関する詳細は「Excel ファイルに出力」を参照してください。

保存された検査レポートの表示に関する詳細は、「その他のウィンドウ、エディタ、およびツールバーの使用」の章の「検査レポートの表示」トピックを参照してください。

マークされた設定に印刷オプションの設定

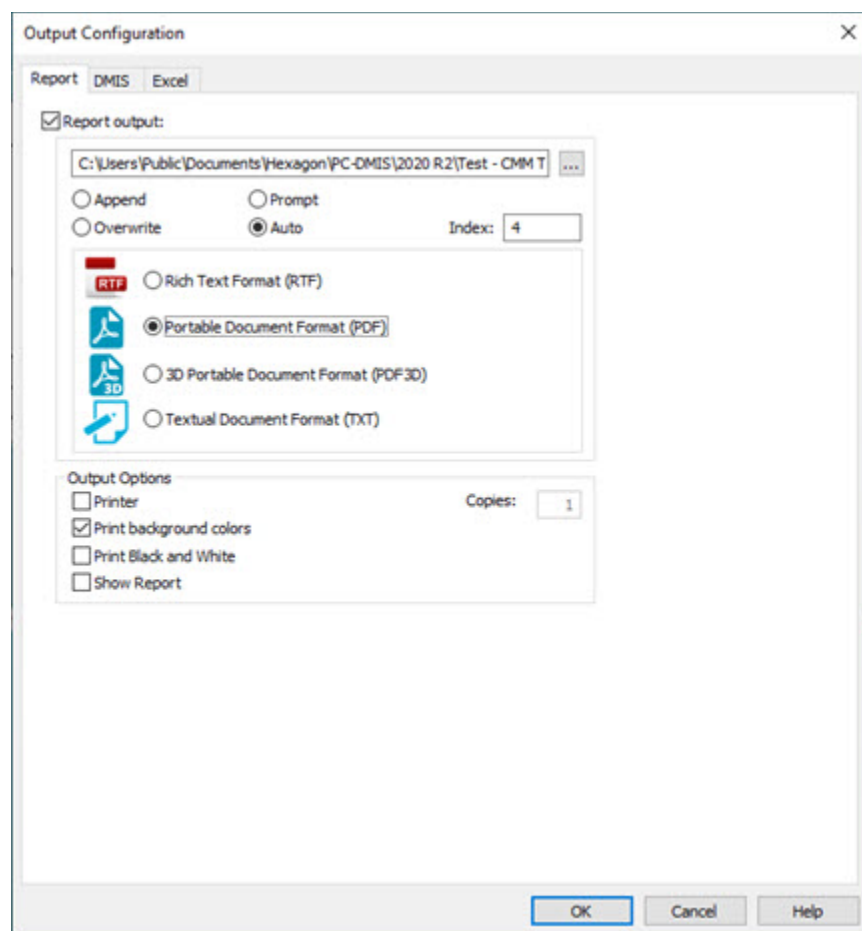
PC-DMISでは、「マークされたセット」が作成されるたびに[出力設定]ダイアログボックスのインスタンスが表示されます。これは、**新規に作成された「マークされたセット」**のみに適用される印刷オプションを定義します。代わりに、測定ルーチン全般に適用される既定の印刷設定を使用したい場合は、[グローバル印刷設定の使用]チェックボックスを選択することもできます。「マークされたセット」の使用に関する詳細は、「測定ルーチンの編集」の章にある「マーク済み要素セットの作成と実行」の項目を参照して下さい。

既存のマークされた設定の印刷オプションを定義するには、「マークされた設定」ウィンドウで設定を選択して**ファイル|印刷|ウィンドウ印刷設定をレポート**を選択します。

画像の比の設定

`MaxImageRatio` エントリは、レポートウィンドウからCAD描画を印刷するときの画面解像度とプリンタ解像度の間の最大画像比を設定します。PC-DMIS設定エディタのレポートの項にある `MaxImageRatio` エントリを参照してください。

RTF、PDF、TXTファイルファイルへ、またはデフォルトプリンターへの出力



[出力設定] ダイアログボックス - [レポート] タブ

出力設定ダイアログボックス（ファイル | 印刷 | レポートウィンドウの印刷設定）のレポートタブは下記を行うかどうかを定義します。

- レポートの出力をプリンターに送信する
- レポートを個別ファイル (.rtf、.pdf、または.txt) として保存する
- 上記の両方を行う

また、ダイアログボックスが生成されたレポートにオプションを提供します。

レポート出力

レポート出力 - これを選択するとPC-DMISは出力をファイルに送信します。テキストファイル (.txt)、リッチテキスト形式 (.rtf) またはPDF形式 (.pdf) のいずれかで保存できます。この .pdf ファイルは標準 PDF ファイルまたは 3D PDF ファイルのいずれでもかまいません。

最初に、測定ルーチンと同じ名前を持ち、拡張子の前に数字インデックスが付加されるようにファイル名が生成およびフォーマットされます。PC-DMISはこの初期ファイル名を生成しますが、この名前はデフォルト形式に従う必要はなく変更することができます。

レポート出力ボックスに変数名を入力することもできます。既にボックス内に経路がない限り、PC-DMISはその変数のファイル名の値を解釈します。

追加 - PC-DMISは検査レポートから選択したファイルに現在のデータを追加します。完全パスの指定が**必須**です。それ以外の場合、PC-DMISは、測定ルーチンと同じディレクトリだと推測します。また、ファイルが存在しない場合は、それはレポートの生成時に作成されます。



制限の追加

RTF ファイルの場合、レポート作成のために RTF ドライバが PC-DMIS のテンプレートアプローチを使用する方法が制限されているため、RTF ファイルに**追加**するとき、PC-DMIS は現在のレポートテンプレートに存在する他のオブジェクトに無関係に、**TextReporting** オブジェクトのコンテンツのみを送信します。

また、RTF ファイルに追加することを選択した場合、そのファイルは、**常に追加**オプションとともに使用されたファイルでなければなりません。最初に**上書き**または**自動**で使用した RTF ファイルには追加できません。

3D PDF ファイルの場合、PC-DMIS はそのファイル形式での追加機能をサポートしません。

上書き - PC-DMISは現在の検査レポートデータで選択されたファイルを**上書き**します。完全パスを指定する必要があり、指定しない場合、PC-DMISは測定ルーチンと同じディレクトリと見なします。また、ファイルが存在しない場合は、それはレポートの生成時に作成されます。

プロンプト - PC - DMIS はユーザが報告のために目的地ファイルを選ぶことができる**改名保存**ダイアログ・ボックスを表示します。

自動 - PC-DMISはインデックスボックスの番号を使用してレポートファイル名を自動で生成します。生成されたファイル名は測定ルーチン名に数字のインデックスと拡張子が付いたものになります。また、作成されたファイルは測定ルーチンと同じディレクトリに置かれます。作成されたファイル名と同じ名称のファイルが既に存在する場合、**[自動]**オプションは一意的ファイル名が見つかるまで、ファイル名のインデックスの値を増加します。



報告書印刷後に、PC-DMISは次の番号に**インデックス**の値を内部的に更新します。また、それは**印刷オプション**ダイアログ ボックスにおけるファイル名を変更して、新たに増加されたファイル名を示します。

リッチテキスト形式 (RTF) - PC-DMIS は Microsoftリッチテキスト形式 (. rtf ファイル) を使用してドキュメント交換のためのレポートを作成します。PC-DMISはデフォルトではAmyuni RTFコンバータを使用してRTFレポートを作成します。デフォルトではPC-DMISはAmyuni RTFコンバータを用いてRTFレポートを作成します。これはRTFレポート内部でレポートテンプレート要素を正確に配置するのに必要です。それには、RTFレポート内の、レポートテンプレート要素の正確な位置付けが必要となります。適切にレポートを表示するには、Microsoft Wordを使用して**印刷レイアウト**にドキュメントのビューを設定しなければなりません。この形式でレポートを編集するのが難しい場合は、旧形式のRTFレポートを作成することを考えたほうがよい場合があります。

旧式 RTF レポートの作成

PC-DMIS はバージョン3.7以前のバージョンで使用されるレポートなど、旧式のRTFレポートを作成する方法を提供しています。これを行うには以下の手順に従います。

1. PC-DMISを閉じて下さい。
2. PC-DMIS設定エディタを起動し、**接続**をクリックします。
3. Settings Editor内で、**USER_Printing**セクションを展開すると
`DoNotUseAmyuniRTF` エントリが表示されます。
4. **現在 値**を1に設定して、**設定の保存**をクリックして、**OK**をクリックします。



ファイル| 印刷| ウィンドウ印刷設定をレポート メニュー オプションを使用して作成される時にのみこの設定は機能します。PRINT/REPORT コマンド (挿入| レポートコマンド| 印刷コマンド)を挿入した場合、RTF出力を作成するコマンドを希望して、この値を2に設定します。

5. PC-DMIS を再起動します。
6. レポートウィンドウがレポートをテキスト形式で印刷するよう設定されていることを確認します。これを行うには、レポートウィンドウの終わりに空白を右クリックしてテキストモードの測定結果レポートを使用 チェックボックスを選択します。詳しい情報については、「測定結果のレポート」の章にある「レポートウィンドウの内容変更」を参照して下さい。

旧スタイルの RTF レポートのマージンおよびページサイズを変更

DoNotUseAmyUniRTF エントリが1または2に設定されている場合、PC-DMIS Settings Editorの印刷セクション下にある以下のレジストリ エントリを変更することで RTF 出力に使用するデフォルトのマージンおよびページサイズを変更することができます :

```
PcdmisRTFLeftMargin
PcdmisRTFRightMargin
PcdmisRTFTopMargin
PcdmisRTFBottomMargin
PcdmisRTFPaperHeight
PcdmisRTFPaperWidth
```

RTF レポートの追加使用

RTFファイル形式の意味の原因で、RTFファイルは主に以下のようにテキストベースのレポートを交換できるファイル形式として意図されています :

```

PART NAME   : Test Program
REV NUMBER  : B5
SER NUMBER  : 13579
STATS COUNT : 1

Active alignment changed to STARTUP

                START ANG=0,END ANG=0CYL1=CYLINDER MEASURED FROM 9 HITS
DIM LOC1= LOCATION OF CYLINDER CYL1 UNITS=MM
AX  NOMINAL      +TOL      -TOL      MEAS      DEV      OUTTOL
X   154.500      0.025      0.025      154.495      -0.005      0.000 ---#-----
Y   19.500       0.025      0.025      19.503       0.003      0.000 -----#---
Z   -35.000      0.025      0.025     -35.000       0.000      0.000 ----#----
    
```

default.rtp レポートテンプレートを使用するテキストベースレポートの例

CADonly.rtp、TextOnly.rtp、その他同様のテンプレートに基づくファイルのようなグラフィカルな要素を含む RTF ファイルは、作成するのに長い時間がかかり、ファイルが非常に大きくなる可能性があり、グラフィックは他のファイル形式と同じように良いとは限りません。このような理由により、グラフィカルなレポートには RTF 形式ではなく PDF 形式を推奨します。

ポータブル文書フォーマット (PDF) - ポータブル文書フォーマット (PDF) オプションを選択した場合、PC-DMISは*Adobe Portable Document Format (.pdf ファイル)*または電子ファイル共有を使用してレポートを作成します。PDF フォーマットの寸法は、デフォルトの青色の背景色を持たず寸法のシンボルも表示しません。



コンピュータに既にインストールされていない場合、pdf ファイルをビューするためにツリーAdobe® Acrobat® Reader™ をインストールする必要があります。以下のAdobeのウェブサイトからダウンロード可能です:
<http://www.adobe.com/products/acrobat/readstep.html>

3D ポータブルドキュメントフォーマット (PDF3D) - これは.pdf ファイルも生成しますが、主な相違点は.pdf ファイル内部で操作できる埋め込み CAD オブジェクトを含んでいることです。情報および既知の制限については、「測定結果のレポート」章にある「PDF 3D ファイルの使用」を参照してください。

テキスト文書 (TXT) - PC-DMISはプレーンテキストフォーマットでレポートを生成します。このタイプのレポートは任意のテキストエディタで表示できます。レポート生成時に、「レポート」ウィンドウで選択した実際のテンプレートが何であっても、PC-DMISはdefault.rtpテンプレートを使用します。このテキスト形式レポートは画像など、あらゆるオブジェクトを無視します。default.rtpテンプレートについて詳しくは、「測定結果をレポートする」章の「従来のテキストレポート」を参照してください。測定ル

ルーチンを.txt出力をサポートしないバージョンに保存すると、PC-DMISはテキストフォーマットの代わりにPDFを使用します。

グローバル印刷設定の使用 - このチェックボックスは、[マークされたセット]ウィンドウから最初にマークされたセットを選択してこのダイアログボックスにアクセスした場合に利用可能になります。**グローバル印刷設定の使用**チェックボックスは、マークされたセットのグローバル出力ファイルのパラメータをPC-DMISが使用するかどうかを決定します。このチェックボックスをオンにすると、PC-DMISはマークされたセットに使用する特定のデフォルト印刷オプションを上書きし、測定ルーチンのグローバル設定を使用して出力をより柔軟にコントロールすることが可能です。このチェックボックスを選ぶと、マークされたセットで使用するファイルへの印刷命名スキーマよりも自由なコントロールが可能です。




REPORT/LEGACY コマンドでは**Hyper レポートインライン** チェックボックスを使用できます。詳しくは、「測定結果のレポート」章の測定ルーチンでのレポートまたはレポートテンプレートの埋め込みを参照してください。

出力オプション

プリンター - レポートをデフォルトのプリンターに送信するかどうかを決定します。

背景色を印刷 - レポートの背景色を印刷するかどうかを決定します。 。

デフォルトでは、このチェックボックスは選択されており、背景色が印刷されます。このチェックボックスをクリアすると、背景色は印刷されません。既にレポートウィンドウにあるレポートから背景色をクリアまたは表示する場合、**レポートツールバー**から**[レポートを再描画]**ボタン  をクリックしてください。

このチェックボックスのデフォルト状態を変更するには、**編集メニュー**をクリックし、**優先設定**に進み、次に**セットアップ**をクリックします。次に、**一般タブ**で、チェックボックスのリストから**背景色の色を印刷**チェックボックスをマークするかクリアします。

基本的なファイルオプションの使用

pcodmis		PART NAME : V41Test		March 15, 2006		12:22	
		REV NUMBER :		SER NUMBER :		STATS COUNT : 1.0000	
0.0000	MM	LOC1 - CIR1					
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL	
X	154.5000	0.010	0.010	154.5000	0.000	0.000	
Y	80.5000	0.010	0.010	80.5000	0.000	0.000	
PD	15.0000	0.010	0.010	15.0000	0.000	0.000	
0.0000	MM	LOC2 - CIR2					
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL	
X	93.5000	0.010	0.010	93.5000	0.000	0.000	
Y	80.5000	0.010	0.010	80.5000	0.000	0.000	
PD	15.0000	0.010	0.010	15.0000	0.000	0.000	
0.0000	MM	LOC3 - CIR3					
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL	
X	93.5000	0.010	0.010	93.5000	0.000	0.000	
Y	19.5000	0.010	0.010	19.5000	0.000	0.000	
PD	15.0000	0.010	0.010	15.0000	0.000	0.000	
0.0000	MM	LOC4 - CIR4					
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL	
X	154.5000	0.010	0.010	154.5000	0.000	0.000	
Y	19.5000	0.010	0.010	19.5000	0.000	0.000	
PD	15.0000	0.010	0.010	15.0000	0.000	0.000	

背景色付きのレポートの例。

pcodmis		PART NAME : V41Test		March 15, 2006		12:27	
		REV NUMBER :		SER NUMBER :		STATS COUNT : 1.0000	
0.0000	MM	LOC1 - CIR1					
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL	
X	154.5000	0.010	0.010	154.5000	0.000	0.000	
Y	80.5000	0.010	0.010	80.5000	0.000	0.000	
PD	15.0000	0.010	0.010	15.0000	0.000	0.000	
0.0000	MM	LOC2 - CIR2					
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL	
X	93.5000	0.010	0.010	93.5000	0.000	0.000	
Y	80.5000	0.010	0.010	80.5000	0.000	0.000	
PD	15.0000	0.010	0.010	15.0000	0.000	0.000	
0.0000	MM	LOC3 - CIR3					
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL	
X	93.5000	0.010	0.010	93.5000	0.000	0.000	
Y	19.5000	0.010	0.010	19.5000	0.000	0.000	
PD	15.0000	0.010	0.010	15.0000	0.000	0.000	
0.0000	MM	LOC4 - CIR4					
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL	
X	154.5000	0.010	0.010	154.5000	0.000	0.000	
Y	19.5000	0.010	0.010	19.5000	0.000	0.000	
PD	15.0000	0.010	0.010	15.0000	0.000	0.000	

背景色なしのレポートの例。



一部のケースで、ここで背景色の表示を閉じた後もレポートに背景色が表示され続ける場合があります。これは、一部のレポート テンプレートオブジェクト内に存在する特殊な背景色があるためであり、このチェックボックスからはコントロールできません。デフォルトでは、PC-DMISレポート テンプレート内に存在する **TextReportObject** およびレポート オブジェクトには、配色上ごく淡い緑色の背景色が付いています。**TextReportObject** にとって、これはテンプレート内のオブジェクトの境界を表示するのに役立ちます。この背景色が問題である場合、レポート テンプレートから当該オブジェクトの色プロパティにアクセスし、背景色を白色に変更して下さい。「測定結果をレポート」の「レポートのテキスト色を変更」を参照してください。

[白黒で印刷] - テキスト、線、および公差範囲のグラフを白黒または定義した色のいずれかで印刷するかを決定します。 。



これは、すべてのレポートを完全に白黒印刷するわけではありません。このチェックボックスの影響を受けない要素もあります(例えばグラフィックの表示ウィンドウ、画像、一部の OCX 要素はこの影響を受けません)。

pcodmis		PART NAME : 2009_MR1_TotalStation					May 23, 2011		15:53	
		REV NUMBER :			SER NUMBER :			STATS COUNT : 1		
母	IN	LOC1 - CIR1								
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL				
X	2.7165	0.0100	0.0100	2.6834	-0.0331	-0.0231				
Y	3.5433	0.0100	0.0100	3.5135	-0.0298	-0.0198				
D	0.3630	0.0100	0.0100	0.3573	-0.0057	0.0000				
母	IN	LOC2 - CIR2								
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL				
X	2.7165	0.0100	0.0100	2.6871	-0.0294	-0.0194				
Y	3.5433	0.0100	0.0100	3.5257	-0.0176	-0.0076				
D	0.3630	0.0100	0.0100	0.3584	-0.0046	0.0000				
母	IN	LOC3 - CYL1								
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL				
X	2.7165	0.0100	0.0100	2.6853	-0.0313	-0.0213				
Y	3.5433	0.0100	0.0100	3.5195	-0.0238	-0.0138				
D	0.3630	0.0100	0.0100	0.3578	-0.0052	0.0000				
H	1.4629	0.0100	0.0100	1.4944	0.0314	0.0214				

白黒印刷されたレポートの例。

pcdmis		PART NAME : 2009_MR1_TotalStation					May 23, 2011		15:50	
		REV NUMBER :			SER NUMBER :			STATS COUNT : 1		
⊕		IN	LOC1 - CIR1							
AX		NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL			
X		2.7165	0.0100	0.0100	2.6834	-0.0331	-0.0231			
Y		3.5433	0.0100	0.0100	3.5135	-0.0298	-0.0198			
D		0.3630	0.0100	0.0100	0.3573	-0.0057	0.0000			
⊕		IN	LOC2 - CIR2							
AX		NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL			
X		2.7165	0.0100	0.0100	2.6871	-0.0294	-0.0194			
Y		3.5433	0.0100	0.0100	3.5257	-0.0176	-0.0076			
D		0.3630	0.0100	0.0100	0.3584	-0.0046	0.0000			
⊕		IN	LOC3 - CYL1							
AX		NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL			
X		2.7165	0.0100	0.0100	2.6853	-0.0313	-0.0213			
Y		3.5433	0.0100	0.0100	3.5195	-0.0238	-0.0138			
D		0.3630	0.0100	0.0100	0.3578	-0.0052	0.0000			
H		1.4629	0.0100	0.0100	1.4944	0.0314	0.0214			

カラーレポートの例。

レポートを表示 - PC-DMIS が.pdf または .rtf ファイルに送信するレポートを開くかどうかを決定します。このオプションにマークを付けると、レポートが作成された後に、.rtf または .pdf ファイルと関連付けたすべてのアプリケーションでレポートが開きます。

コピー - プリンターに送信するコピーの数を決定します。このオプションはプリンターオプションにマークを付けている場合にのみ有効です。

印刷解像度の変更による、ファイル サイズ コントロール

お客様のレポートにパートモデルの画像が含まれる場合、PC-DMISはデフォルトではお手持ちのプリンターのより高度の解像度能力を用いて、これらのモデル画像を印刷します。このことは、パートモデルを表示するレポートがファイルに送られたとき、そのファイルサイズが予想以上に大きい可能性があることを意味しています。

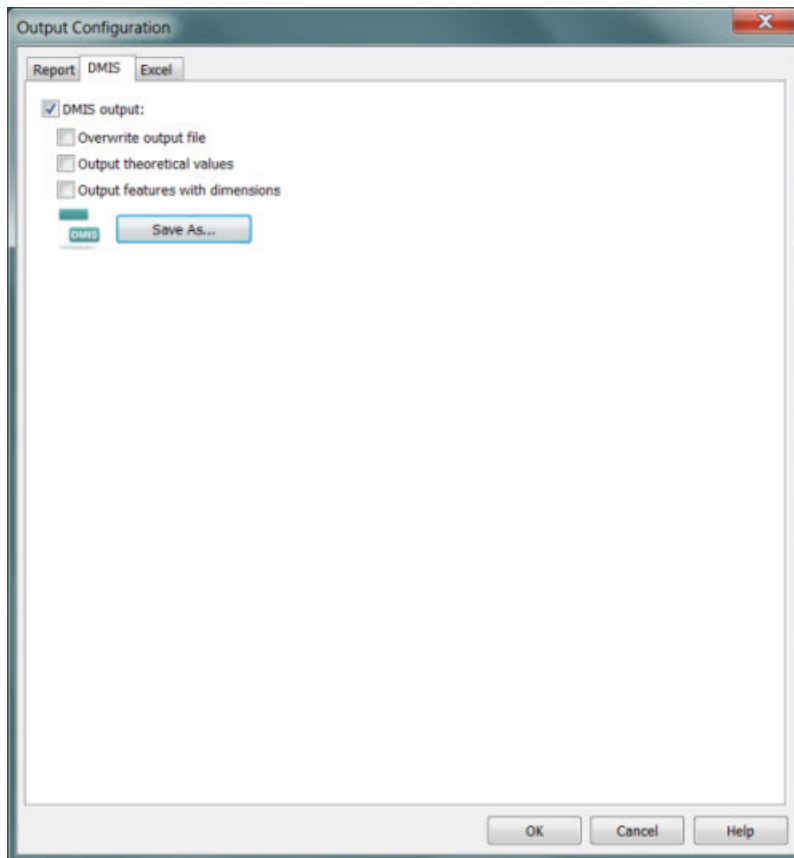
PC-DMIS設定エディタのユーザー_印刷セクションのMaxPrintResoution エントリの値を変更することで、**解像度をコントロールでき、レポートのファイルサイズも コントロールできます**。エントリの変更方法については、「設定エントリの変更」を参照してください。

このMaxPrintResolution エントリは、印刷装置がCAD画像の印刷時に生成する1インチ当たりのドット数 (dpi) を定義します。必要に合わせてこの値を変更

して、ファイルサイズと画質の間の適切なバランスを定義することができます。デフォルト値は1,000,000 dpi であり、任意プリンタの最高印刷解像度性能を効果的に活用できます。プリンタの最高印刷解像度より低い値を定義すると、ファイルサイズが小さくなります。例えば、プリンタが最大500 dpiを印刷できるが、エントリーを70 dpiなどの小さな値に変更するとファイルサイズが小さくなります。

。

DMIS ファイルに出力



[出力設定]ダイアログボックス - [DMIS] タブ

[出力設定] ダイアログボックス (ファイル | 印刷 | レポートウィンドウ印刷設定) で、**DMIS**タブから**DMIS**出力にマークを付けて測定ルーチンを実行すると、PC-DMIS は検査レポート情報をDMIS出力ファイルとして測定ルーチンと同じベースファイル名に .dmoというファイル拡張子の付いた名前で作成して保存します。PC-DMISはこのファイルを測定ルーチンが存在する場所と同じディレクトリに保存されます。

出力ファイルを上書き、理論値を出力、および寸法付き要素を出力チェックボックスおよび名前を付けて保存 ボタンが利用可能になります。デフォルトでは、測定ルーチンを実行するたびにPC-DMISは自動的に出力ファイルを生成します。そのたびにファイル名の番号が増加されます。

出力ファイルの上書き

- このチェックボックスをオンにすると、PC-DMISは古い出力ファイルを新しい出力ファイルで上書きします。このチェックボックスを選択しないと、PC-DMISは以前のファイルを上書きせずに、名前を付けて保存ダイアログ ボックスで指定されたファイル名の数字を自動的に増やします。

例えば、以前に出力ファイルとして「test.dmo」を選択し、出力ファイルを上書きが選択されていなかった場合、次回に測定ルーチンが実行されるとき、PC-DMISは新しいファイルを「test1.dmo」として保存します。測定ルーチンを新たに実行すると、この方法で保存されるファイル名の番号がインクリメントされます。

- 出力ファイルを上書きチェックボックスを三番目の状態（ソリッドブルーの色）に置くと、PC-DMIS は追加モードで指定されたファイルを開きます。これは、同ファイルへの出力を可能、不可能、再可能とするDMISの規則に沿っています。PC-DMISでは、出力ファイルを上書きがチェックされている状態でファイルが開かれた場合にのみ、この機能が正常に作動します。

理論値の出力

- このチェックボックスを選択すると、PC-DMISはすべての理論値と測定値を出力DMISファイルに出力します。このチェックボックスをオフにすると、理論値はレポートに含まれません。
- 理論値の出力 チェックボックスをその三番目の状態（ソリッドブルーの色）に置くと、オリジナルDMISルーチンで明示的に出力されたこれらの理論値のみがレポートに出力されます。測定ルーチンがDMISインポートプロセスで作成されている場合、三番目の状態は有用で、同じDMISの出力形式を維持する必要があります。

測定結果と共に幾何学要素を出力

- このチェックボックスをオンにすると、PC-DMISは測定された要素と関連する公差値を出力ファイルに保存します。PC-DMISは、要素自体に関連付けられているそれぞれの測定結果に対する関連公差の直前に測定の結果を書き込みます。

要素が公差と関連付けられていない場合、PC-DMISは出力を生成しません。

- チェックボックスがオフにされた場合、要素が測定され、PC-DMIS が関連する寸法を実行したすぐ後に測定の結果が正確に書き込まれます。

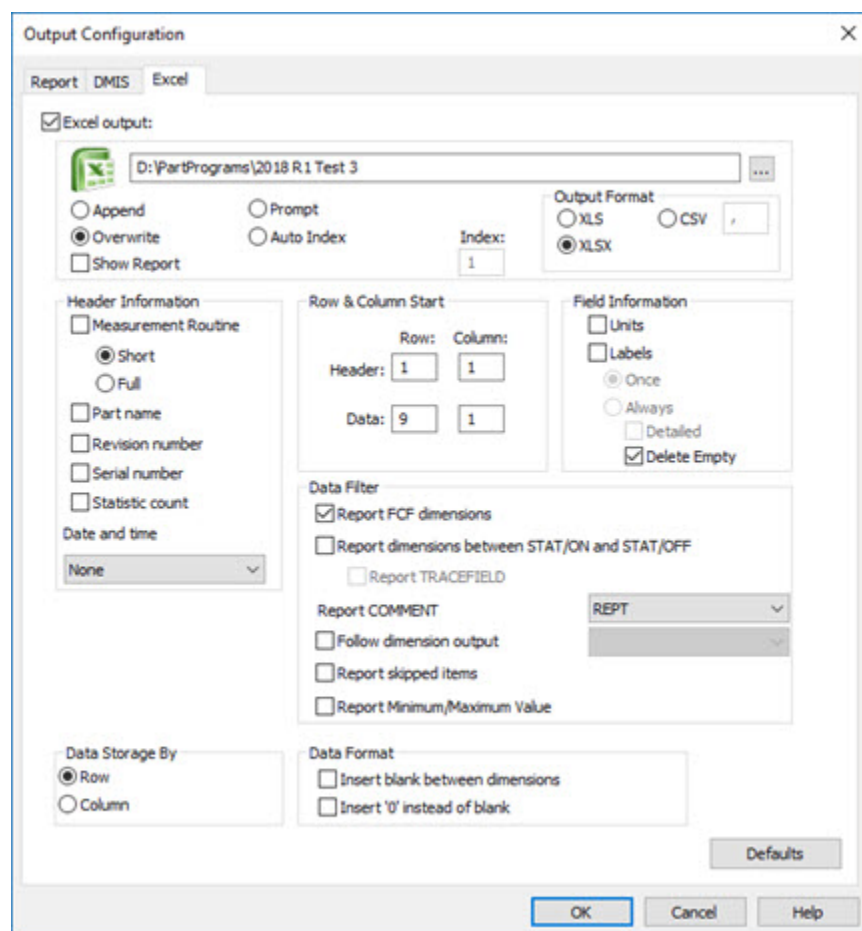
名前を付けて保存

このボタンは、[名前を付けて保存] ダイアログ ボックスを開きます。DMISの出力形式 (. dmo)でファイルと選択したディレクトリに検査レポートを保存します。名前を付けて保存 ダイアログボックスから保存 をクリックした場合、PC-DMISはこのファイルを保存しません。代わりに、次回測定ルーチンが実行された時に、前回指定された名称のついた出力ファイルが作成されます。



ファイル名の数値部分は10以上の数字を超えてはなりません。それ以外の場合は、古い出力ファイルを上書きする危険性を実行します。

Excelファイルに出力



[出力設定]ダイアログボックス - [Excel] タブ

[出力設定]ダイアログボックス（[ファイル|印刷|レポートウィンドウの印刷設定]）では、**Excel**タブがレポートをExcelファイルに出力します。

PC-DMISは、レポートウィンドウのモードに従います：

- ・ レポートウィンドウのツールバーで[レポートモードの表示]を選択すると、レポート出力は最初から最後まで生成されます。
- ・ レポートウィンドウのツールバーで[最後に実行するレポートモードを表示]を選択すると、実行リストの後にレポート出力が生成されます。

詳細については、「レポートツールバー」を参照してください。

レポートを Excel フォーマットで出力するには以下を行ってください。

1. **出力設定** ダイアログボックス (ファイル | 印刷 | レポートウィンドウ印刷セットアップ) の **Excel** タブをクリックします。
2. **Excel 出力** チェックボックスを選択してタブオプションを有効にします。
3. 必要に応じてダイアログボックスで選択を行い、**OK**をクリックします。

PC-DMISは検査レポートの情報を、**出力形式**セクションで選択し、作成された Excel ファイル形式で保存します。デフォルトは 同じベースのファイル名に .xlsx ファイル 拡張子を付けた測定ルーチンです。既定の位置はユーザーの測定ルーチンと同じディレクトリにあります。利用可能な Excel ファイル形式は以下のとおりです。

- 最新の Excel .xlsx フォーマット
- 旧 Excel .xls フォーマット
- カンマ区切り値 .csv フォーマット

Excel オプションの設定

Excel 出力 チェックボックスを選択すると、以下のオプションが有効になります。

Excel 出力 - レポートが保存されるファイル名とパスが表示されます。ファイル名はデフォルトの測定ルーチンの名前になります。新しいファイル名とパスを入力するか、「...」。ブラウズボタンをクリックして既存のファイル名とパスを探し選択します。

Excel出力ボックスに変数名を入力することもできます。既にボックス内に経路がない限り、PC-DMISはその変数のファイル名の値を解釈します。

追加 - ファイル名がターゲットの位置に既に存在している場合、現在のレポート情報が既存ファイルの最後に自動的に追加されます。

上書き - ファイル名がターゲットの位置に既に存在している場合、既存ファイルは自動的に現在のレポート情報で上書きされます。

プロンプト - ファイル名がターゲットの位置に既に存在している場合、既存ファイルを現在のレポート情報で上書きするかファイル名を更新するか尋ねられます。

自動インデックス - インデックスボックスと共に使用され、この値は、インデックス値によって増分値を追加してファイル名を更新します。例えば、出力フォー

マットエリアでXLSを選択すると、最初のファイル名は「FileName001.xls」になります。以降、ファイル名は「FileName002.xls」、「FileName003.xls」などとなります。

インデックス - 出力ファイルに自動的に名前を付けるために**[自動]**オプションを使用するときに、増分値を表す表示専用フィールドです (上記の **[自動]**オプションを参照してください。)

レポートの表示 - エクセル形式のレポートを生成すると、それが自動的に開きます。

出力フォーマット - 出力タイプを定義します。以下のオプションが含まれます。

XLS - 出力を旧Excelフォーマットのファイルに送信します。

XLSX - 出力を最新のExcelフォーマットのファイルに送信します。

CSV - 出力をプレーンテキストのカンマ区切り値 (CSV) ファイルに送信します。**CSV**の横にあるボックスで異なる区切り文字を選択できます。このボックスは、CSVオプションが選択されている場合に有効になり、CSVファイルにエクスポートするときに使用する区切り文字または区切り文字を決定します。デフォルトはカンマ文字(,)です。

ヘッダー情報 - 測定ルーチンのヘッダーデータを出力ファイルに書き込む方法について決定します。

測定ルーチン - 測定ルーチン名が出力ファイルに含まれます。

短縮 - ファイル名が短縮された形式となり、フルパスではなくファイル名のみが表示されます。

フル - ファイル名はフルパスを含めて表示されます。

パート名 - パート名が出力ファイルに含まれます。

改訂番号 - 改訂番号が出力ファイルに含まれます。

シリアル番号 - シリアル番号が出力ファイルに含まれます。

統計数 - トランザクションまたは実行の数が出力ファイルに含まれます。

日付と時刻 - 日付と時刻が出力ファイルおよびフォーマットに表示されるかどうかを指定します。それには以下のオプションがあります。

なし - 日付と時刻を出力ファイルに含みません。

システム - コンピュータの現在のフォーマットで日付と時刻をフォーマットします。これがデフォルトです。

24時間 - これは日付と時刻を24時間形式でフォーマットします。

行列の開始 - 測定結果データが出力ファイルに表示される方法を決定します。

ヘッダ行および列 - ヘッダ情報を表示する開始位置を定義します。例えば、2および2の値は下に向かって2行目、右に向かって2列目から開始することを意味します。

データ行および列 - 測定結果データ情報の表示が開始する位置を定義します。例えば、値9と2は下に向かって9行目、右に向かって2列目から開始することを意味します。

フィールド情報 - フィールド情報を保存する際のフォーマットを決定します。

単位 - 各測定結果で使用される測定単位がエクスポートに含まれるかどうかを決定します。例えば、角度の測定値は度に対するDEGを示し、サイズの測定値はミリメートルに対するMMを、インチに対するINを示します。

ラベル - 出力ファイルでデータフィールドの隣にラベルが表示されるかどうかを決定します。これをマークすると下記オプションが有効になります。

一度 - ヘッダー情報の後、すべての測定結果がリストに表示される前にフィールドラベルが一度だけ現れます。

常時 - フィールドラベルは各測定結果の前で現れます。

詳細 - [常時]をマークすると、このチェックボックスが選択可能になります。レポートにすべてのフィールドラベルを表示したい場合はこのチェックボックスを選択します。

このチェックボックスを選択する場合、表示されるラベルは以下の通りです：測定結果、説明、要素、軸、セグメント、公称値、測定値、プラス公差、マイナス公差、ボーナス、偏差、公差範囲外、偏差角度、基準要素のシフト効果、未使用の領域、シフトX、シフトY、シフトZ、回転X、回転Yおよび回転Z。

チェックボックスを選択しない場合、測定結果、説明、軸、公称値、測定値、プラス公差、マイナス公差、偏差および公差範囲外のラベルのみが表示されます。

空の削除 - 任意の空フィールドをレポートから削除します。

データ保存方法 - レポートを行または列のいずれかで表示する方法を決定します。

行 - 測定結果が横に並べられます。

列 - 測定結果が縦に並べられます

データフィルタ - データを出力レポートでフィルタする方法を決定します。

FCF寸法のレポート - PC-DMISは「要素コントロールフレーム」コマンドをExcelファイルに渡します。「幾何公差を使用する」章を参照してください。

STATS/ON と STATS/OFF 間の寸法のレポート - このチェックボックスを選択すると、測定ルーチンで **STATS/ON** および **STATS/OFF** コマンドの間に寸法(または要素コントロールフレームの測定結果)コマンドを入れる必要があります、そうしない場合、ウィザードはデータを Excel ファイルにエクスポートしません。このチェックボックスを外すと、すべての測定結果コマンドが Excel ファイルにエクスポートされます。「統計データの追跡」章を参照してください。下記のオプションが有効になります：

TRACEFIELDのレポート - PC-DMISは**TRACEFIELD** コマンドが**STATS/ON** および **STATS/OFF** コマンド内部にある場合、TRACEFIELD は Excel レポート内の**TRACEFIELD** コマンドからのデータを含みます。詳しくは、「トレースフィールドの使用」章を参照して下さい。

レポート コメント - PC-DMISがExcelレポートにコメントを含めるかどうかを決定します。それには以下のオプションがあります。

なし - PC-DMISは、Excelレポートにコメントを送信しません。

REPT - PC-DMISは、レポートコメント (**COMMENT/REPT** コマンド) のみをExcelレポートに送信します。

レポートの表示 - PC-DMISは、すべてのレポートコメント (**COMMENT/REPT** コマンド)、及びレポートに表示するチェックボックスをExcelレポートにマークしたコメントを送信します。

コメントについて詳しくは、「レポートコマンドの挿入」章の「プログラマコメントの挿入」トピックを参照して下さい。

寸法出力に従う - PC-DMISはデータをフィルタして、ユーザーがこのリストから選択するものすべてに適合するように設定された出力を持つ寸法のみがExcelレポートに含まれるようにします：

- レポート
- 統計データ
- 両方

例えば、ユーザーがレポートを選択し、位置の測定結果をOUTPUT=STATSに設定する場合、位置の測定結果はExcelレポートに含まれません。

測定結果の出力について詳しくは、以下のトピックを参照してください：

- 従来の測定結果については、「従来の測定結果の使用」の章の「出力先」を参照してください。
- 幾何公差については、「幾何公差の使用」章の「レポートタブ」トピックに記載された出力エリアを参照してください。

スキップされた項目をレポート - PC-DMISはオペレータが実行時にスキップした項目を処理して、それらをレポートに含めます。このチェックボックスをオフにすると、PC-DMISはスキップした項目を無視します。オペレータが手動でそれらをスキップするか、「ON ERROR」条件がそれらをスキップするようにPC-DMISに命じる場合にコマンドがスキップされることに注意してください。スキップの詳細については、「実行ダイアログボックスの使用」を参照してください。On Errorの分岐については、「On Errorの分岐」を参照してください。

最小値/最大値をレポート - 測定結果を作成する点からの最大偏差値と最小偏差値を表示します。すべての測定結果に対するMaxMin (最大最小) がレポートされますが、それは線プロファイルと面プロファイルに対してのみ意味を持ちます。この一例としては、「ユーザー設定」章の「パラメータ設定：測定結果タブ」トピックを参照してください。

データ形式 - 下記のように出力レポートがデータを表示する方法を決定します。

測定結果の間に空白を挿入 - 各測定結果の後に空白の行/列が挿入されます。

空白ではなく「0」を挿入 - 空白データの代わりに「0」(ゼロ)を挿入します。

デフォルト - このボタンはこのダイアログボックスの設定を保存する「デフォルト(複数)」ファイル(ExcelDefaults.p2xfile)を作成します。このボタンをクリックすると、PC-DMISはメッセージを表示せずに「デフォルト」ファイルの内容を自動的に更新します。

PC-DMISは下記のケースでこのデフォルトファイルを使用します。

- 新規測定プログラムの場合
- PC-DMISがプログラム固有の設定を見つけることができない場合における現在の測定プログラムのケース。(PC-DMISはユーザーが**OK**をクリックするときはいつでもプログラム固有の.p2xファイルを測定プログラムと同じディレクトリに作成することに注意してください。)

PC-DMIS は ExcelDefaults.p2x ファイルを以下に保存します:

C:\ProgramData\Hexagon\PC-DMIS\2026.1\。ユーザーは任意のテキストエディタでそれを表示できます。

式を用いてファイルに出力

[出力設定] ダイアログボックス (ファイル | 印刷 | ウィンドウ印刷設定のレポート) の **[レポート]** タブから、**[ファイル]** ボックスで式を使用できます。この機能を用いると、**出力設定** ダイアログ ボックスで測定ルーチンのコードを使用して出力ファイルの保存先ディレクトリを動的に変更できます。

例えば、2 人のユーザー John と Amy が同じ測定ルーチンの検査レポートをユーザー名に基づいて既存サブディレクトリに送信するとします。各ユーザーに対する**出力構成**ダイアログボックスを開き、保存先ディレクトリとレポート名を変更するのではなく、以下のようにユーザーに自分の名前をコメントに入力してもらい、割り当てコマンドとフロー制御コマンドを使用して、異なる保存先ディレクトリとレポート名を変数に保存することができます。

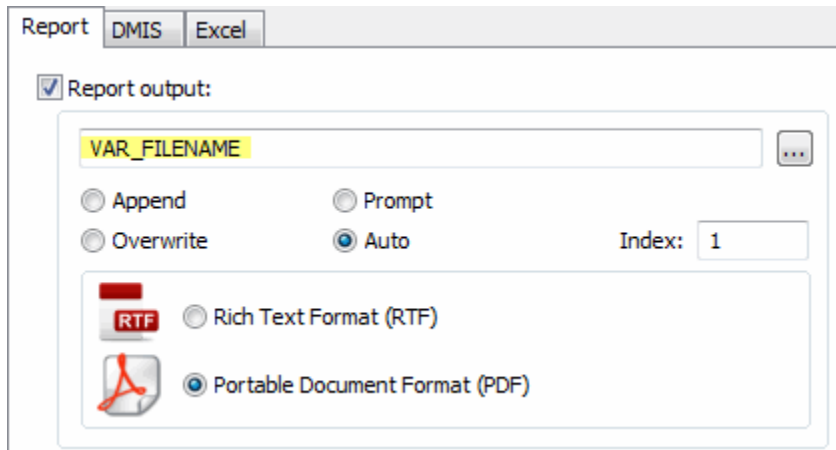


```

C1      =COMMENT/INPUT,YES,Type your name:
        IF/C1.INPUT=="John"
            ASSIGN/VAR_FILENAME="C:\\inspectionreports\\John\\John.rtf"
            COMMENT/OPER,NO,VAR_FILENAME
        END_IF/
        ELSE_IF/C1.INPUT=="Amy"
            ASSIGN/VAR_FILENAME="C:\\inspectionreports\\Amy\\Amy.rtf"
            COMMENT/OPER,NO,VAR_FILENAME
        END_ELSEIF/
        ELSE/
            ASSIGN/VAR_FILENAME="C:\\inspectionreports\\"+C1.INPUT+".rtf"
            COMMENT/OPER,NO,VAR_FILENAME
        END_ELSE/

```

次に、[ファイル]ボックスで、[出力設定]ダイアログボックスの[レポート]タブで、以下のようにVAR_FILENAME変数を入力できます。



ファイルボックス内の VAR_FILENAME を表示する例。

その後、測定ルーチンを実行すると常に、ユーザーが John である場合、PC-DMIS は *John.rtf* レポートを John のディレクトリに保存します。ユーザーが Amy である場合、PC-DMIS は *Amy.rtf* を Amy のディレクトリに保存します。別のユーザーが自分の名前を入力すると、それはデフォルトの *C:\inspectionreports* ディレクトリに保存されます。

- コメントについて詳しくは、「レポートコマンドの挿入」章の「プログラマコメントの挿入」トピックを参照して下さい。

- 式および変数に関する情報については、「式および変数の使用」の章を参照して下さい。
- フローコントロール文の情報については、「フローコントロールを使用した分枝」章を参照して下さい。

測定ルーチンを閉じて終了する

- アクティブな測定ルーチンを保存し、閉じるには、**ファイル|クローズ**をを選択します。測定ルーチンが保存されていない場合、ファイルに名前を付けて保存するように指示されます。



測定ルーチン (.prg) ファイルは有効なバージョンの PC-DMIS にのみ保存できます。

PC-DMIS 2026.1 では、遡って保存できる最も古いバージョンは PC-DMIS バージョン 2020 R2 です。

- 現在の測定ルーチンを終了するには、**ファイル|終了**を選択します。保存していないデータがある場合、保存しないで測定ルーチンを終了するかどうかを問うメッセージが表示されます。測定ルーチンを保存するには、メッセージボックスで **[いいえ]** を選択して、**[ファイル | 保存]** または **[ファイル | 名前を付けて保存]** を選択します (詳しくは、「測定ルーチンの保存」に記載の指示に従ってください)。



各ウィンドウのXをクリックし、ソフトウェアに開かれているすべてのサブウィンドウ (このレポートウィンドウ、編集ウィンドウ及びグラフィックス表示ウィンドウ) を閉じると、PC-DMISは直ちに測定ルーチンを保存して閉じます。ビューメニューを使用してウィンドウを非表示する場合は、測定ルーチンが開いたままになります。

ソフトウェアの終了

現在の測定ルーチンとPC-DMISを終了するには、 **ファイル| 終了** コマンドを選択します。**File | Exit**を選択するとPC-DMISは終了前に現在の測定ルーチンを自動的に保存します。